

令和元年度

県民意識調査

報告書

令和元年9月

福岡県

◇◇ 目 次 ◇◇

I. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査の企画と実施機関	2
II. 対象者属性	3
III. 調査結果	6
1. 県民の幸福実感	6
(1) 幸福実感の点数付け	6
(2) 幸福実感を判断する上で重視した基準	8
(3) 幸福実感を判断する上で重視した事項	8
(4) 5年前と比べての現在の幸福実感	9
(5) 現在と比べて5年後の幸福実感の予測	9
(6) 福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い	10
2. 県の施策について	11
☆ 県政の各分野において、行政に対して力を入れてほしいこと ☆	11
(1) 商工業の振興	11
(2) 観光振興	12
(3) 農林水産振興	13
(4) 雇用対策	14
(5) 地域振興	15
(6) インフラ・社会基盤整備	16
(7) 子育て支援	17
(8) 教育	18
(9) 若者	19
(10) 女性	20
(11) 高齢者・障がいのある人	21
(12) 保健・医療	22
(13) NPO・ボランティア	23
(14) 文化・スポーツ	24
(15) 国際交流	25
(16) 防災対策	26
(17) 防犯・事故対策	27
(18) 環境	28
(19) 重点分野	29
3. 自由意見	30
4. 本調査における特徴的な結果	36
(1) 幸福実感の“判断基準”と“重視事項”による幸福実感の差	36
(2) 家族構成による幸福実感の差	38
(3) 男女別・年代別による幸福実感の差	42
IV. 資料編	47

1. 調査概要

1. 調査目的

県民の幸福実感と県が進める施策に対する県民ニーズを把握し、今後の県政運営へ反映させることを目的とする。

2. 調査設計

- | | |
|-------------|--|
| (1) 調査地域 | 福岡県全域 |
| (2) 調査対象者 | 県内に居住する 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 4,000 サンプル |
| (4) 標本抽出方法 | 層化二段無作為抽出
県内各市区町村の人口数を基に調査地点数を決定し、400 地点を無作為抽出。ただし、単純に比例配分すると集計・分析に耐えうる十分な資料が得られない地点が出るため、北九州、福岡、筑豊、筑後の 4 地域に分け、各地域 100 地点になるよう、均等に割り当てを行った。その後、調査地点ごとに「選挙人名簿」から 1 地点 10 名、合計 4,000 名を抽出した。 |
| (5) 標本抽出台帳 | 令和元年 6 月現在の選挙人名簿 |
| (6) 調査方法 | 郵送法 |
| (7) 調査期間 | 令和元年 7 月 5 日～7 月 26 日 |
| (8) 回収数 (率) | 1,811 サンプル (45.3%) |
| (9) 集計方法 | 地点数を 4 地域で均等配分したため、以下の方法でウェイト値を算出し、加重集計を行う。
①各地域の調査対象年齢の人口を算出。
②各地域の人口を最も人口の少ない地域の人口で除し、人口比の係数を求める。
③各地域の有効回収数を人口の最も少ない地域の有効回収数で除し、サンプル数の係数を求める。
④人口比の係数をサンプル数の係数で除し、ウェイト値を求める。 |

(10) 地域区分 調査地域は下記のとおり、4地域に区分している。

地域	北九州地域	福岡地域	筑豊地域	筑後地域
政令指定都市	北九州市	福岡市		
市	行橋市 豊前市 中間市	筑紫野市 春日市 大野城市 宗像市 太宰府市 古賀市 福津市 朝倉市 糸島市 那珂川市	直方市 飯塚市 田川市 宮若市 嘉麻市	大牟田市 久留米市 柳川市 八女市 筑後市 大川市 小郡市 うきは市 みやま市
町村	芦屋町 水巻町 岡垣町 遠賀町 荻田町 みやこ町 吉富町 上毛町 築上町	宇美町 篠栗町 志免町 須恵町 新宮町 久山町 粕屋町 筑前町 東峰村	小竹町 鞍手町 桂川町 香春町 添田町 糸川町 大崎町 赤任村 福智町	大刀洗町 大木町 広川町

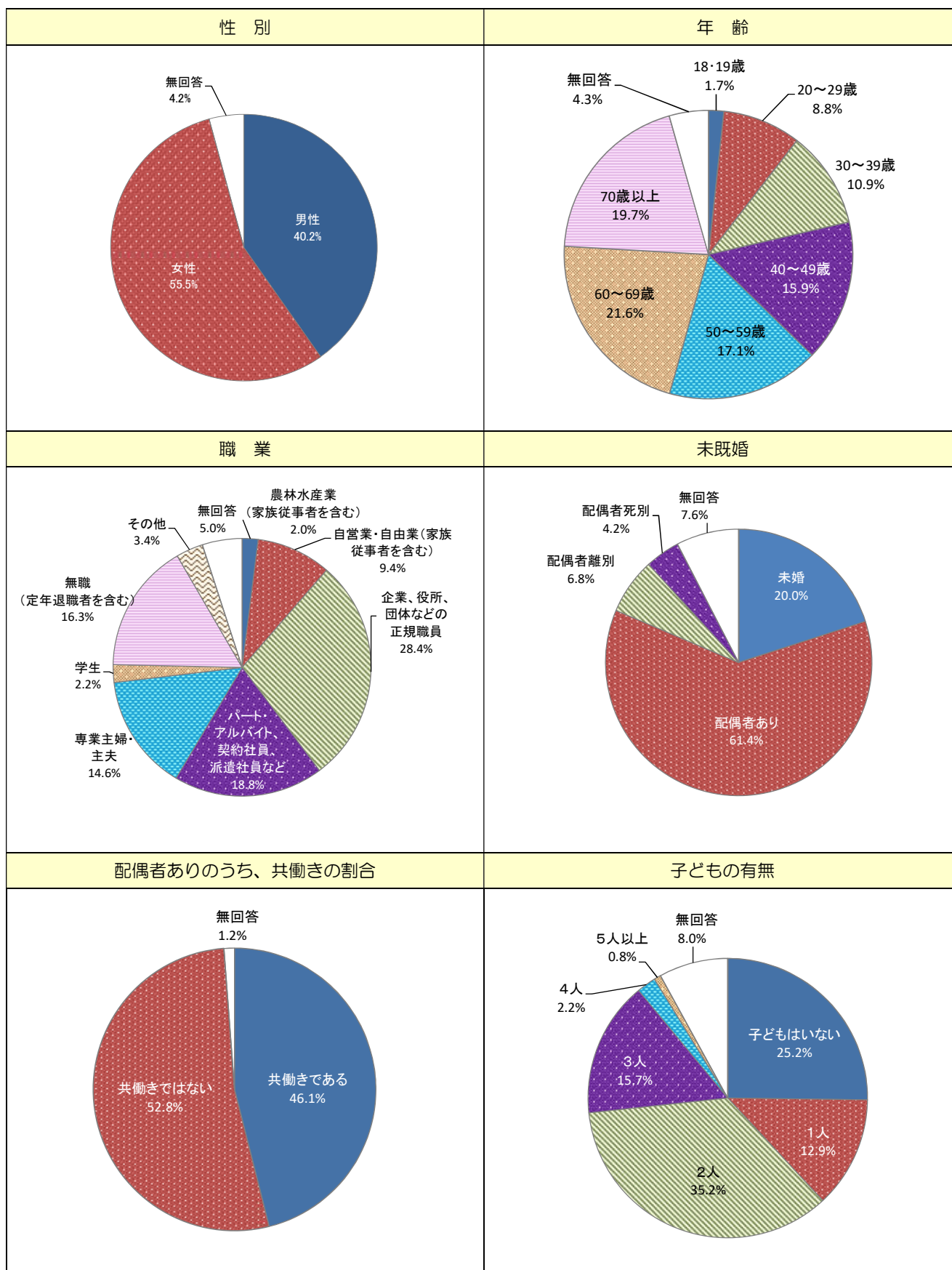
3. 調査の企画と実施機関

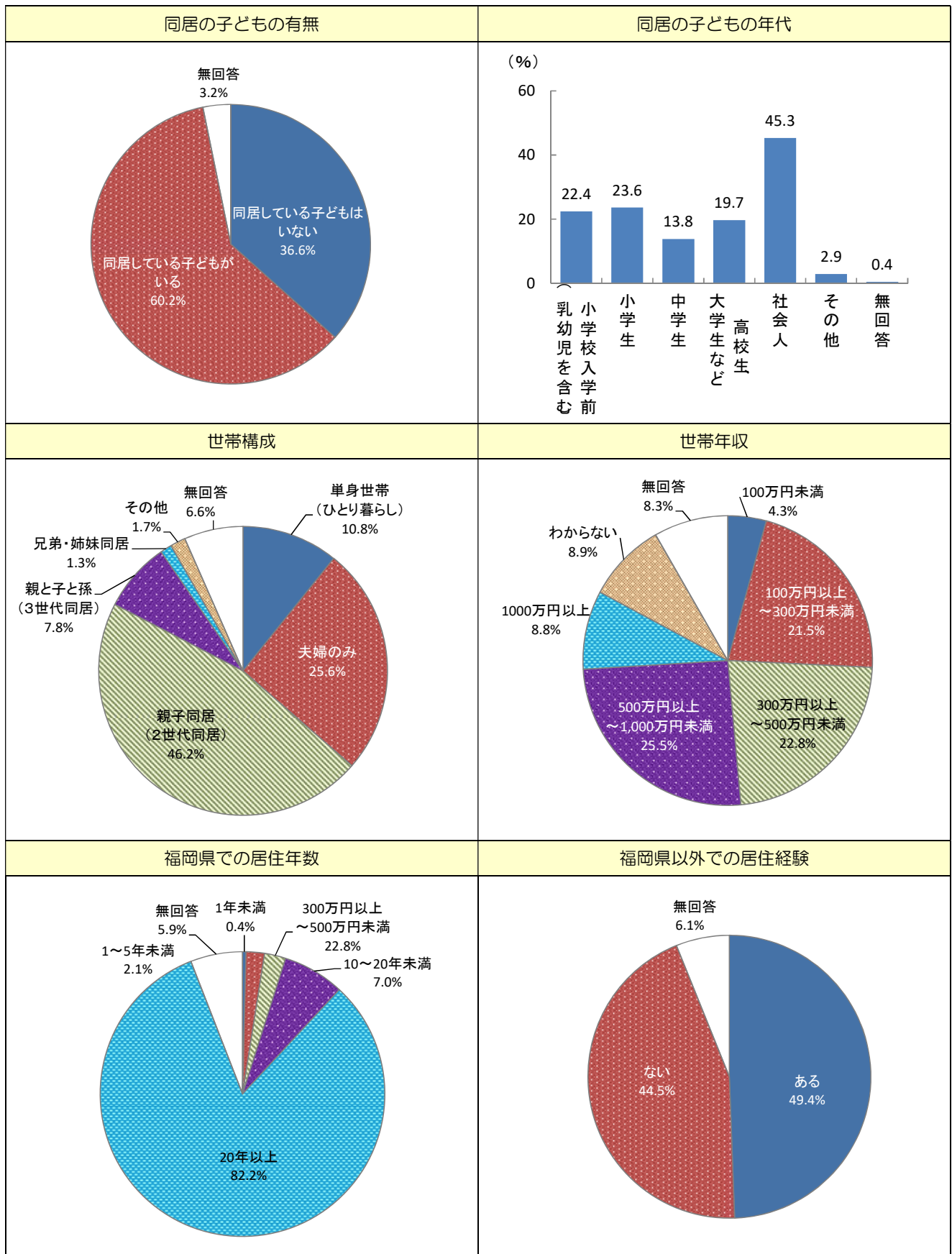
企 画 福岡県 企画・地域振興部 総合政策課
調査実施機関 株式会社東京商工リサーチ

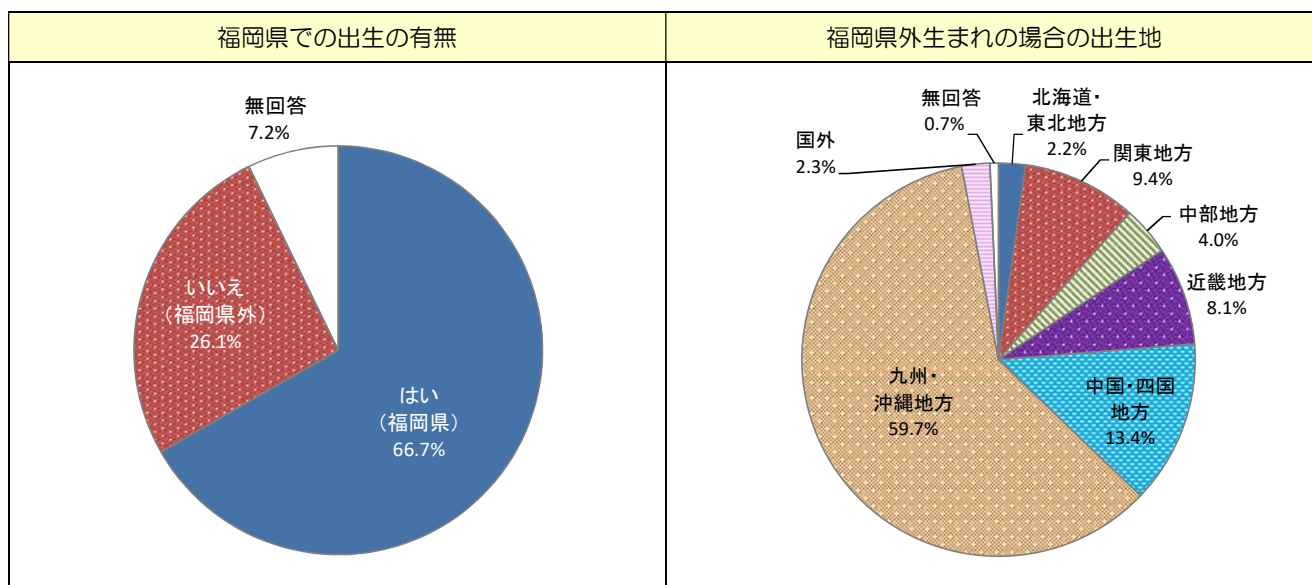
【 調査結果利用上の注意 】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表に示す選択肢は、スペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (4) サンプル数が僅少となる属性項目については、比率が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ、分析からは除外している。

II. 対象者属性





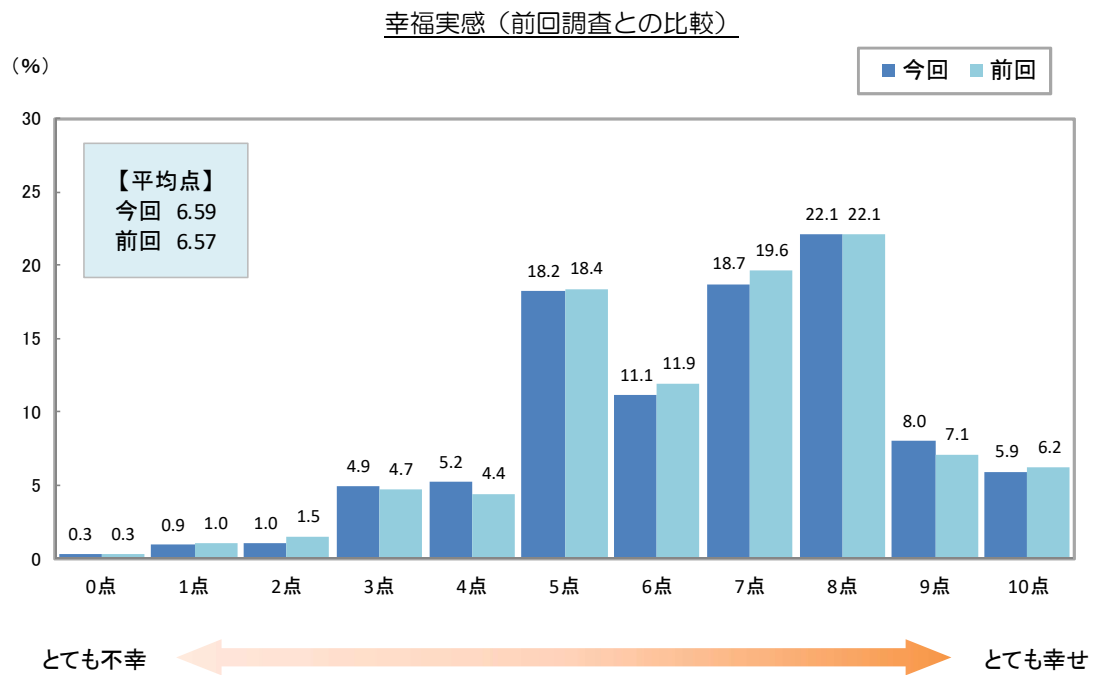


Ⅲ. 調査結果

1. 県民の幸福実感

(1) 幸福実感の点数付け

現在の幸福実感について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として点数付けしてもらった結果、県民の幸福実感は平均6.59点で、前回（平成30年度）の調査結果から0.02点高くなっています。

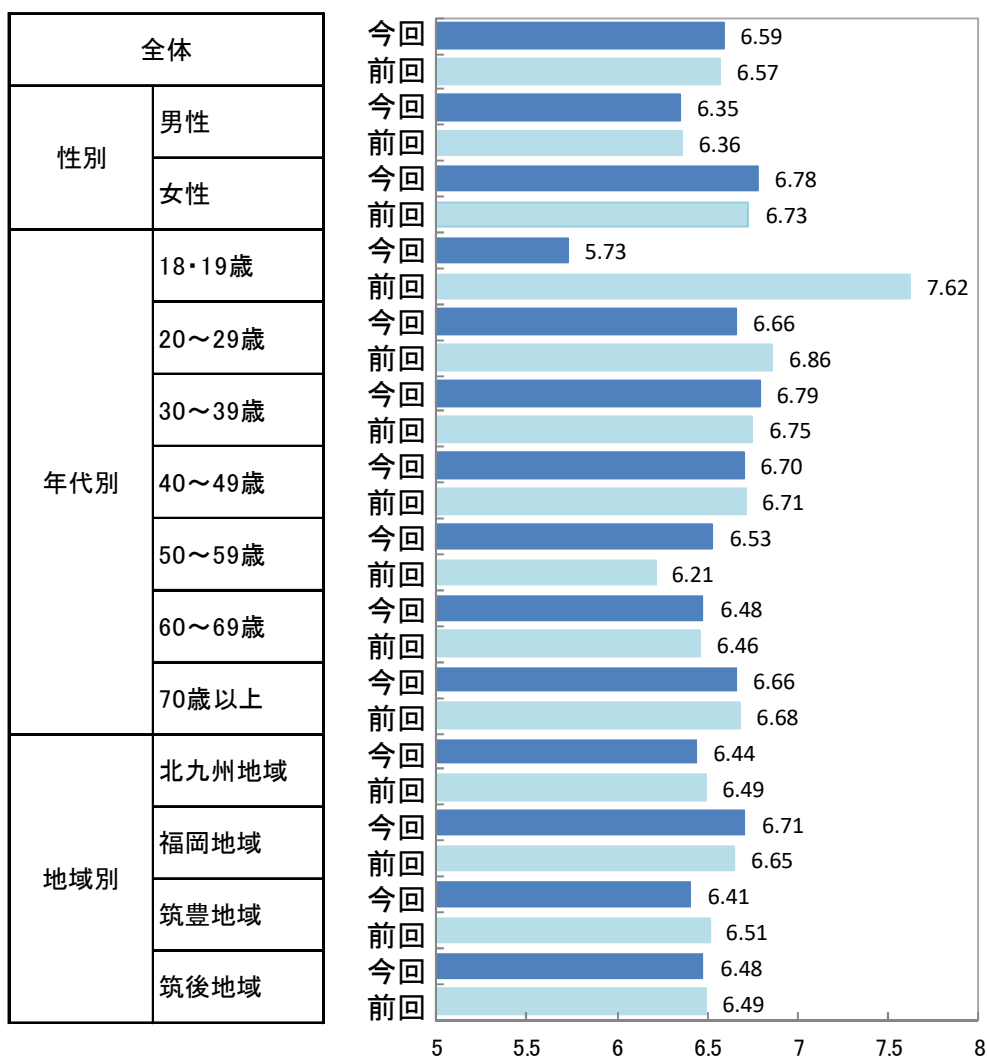


性別にみると、幸福実感の平均点は男性 6.35 点に対し、女性 6.78 点と女性が高くなっています。前回調査と比較すると、男性の点数は下がり、女性の点数は上がっています。

年代別にみると、30 歳代が 6.79 点で最も高く、20 歳代、40 歳代、70 歳以上は県全体よりも高くなっています。一方で、18・19 歳、50 歳代、60 歳代は県全体よりも低くなっています。前回調査と比較すると、50 歳代は点数が大きく上がり、18・19 歳と 20 歳代は大きく下がっています。

地域別にみると、福岡地域が 6.71 点で最も高く、筑豊地域は 6.41 点で最も低くなっています。前回調査と比較すると、福岡地域は点数が上がり、その他の地域はいずれも点数が下がっています。

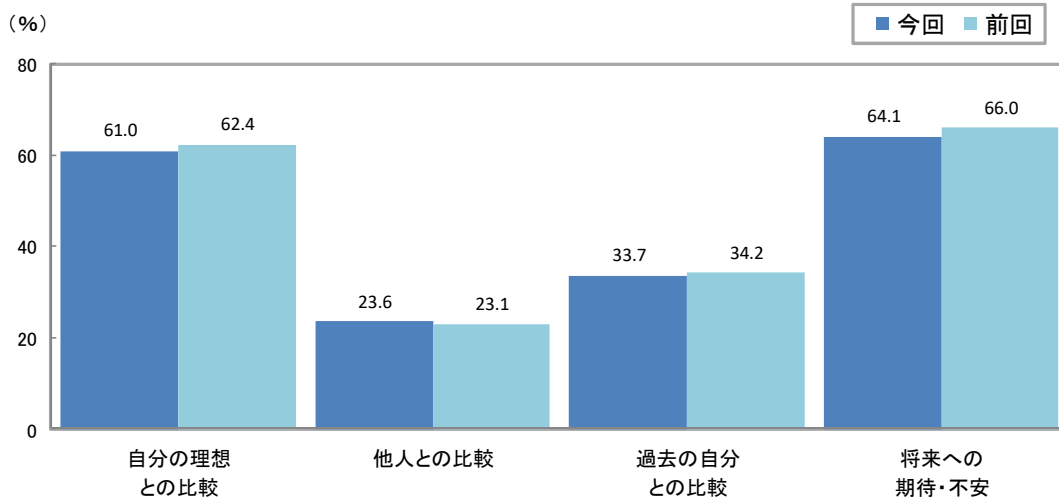
幸福実感平均点比較（性別、年代別、地域別）



(2) 幸福実感を判断する上で重視した基準

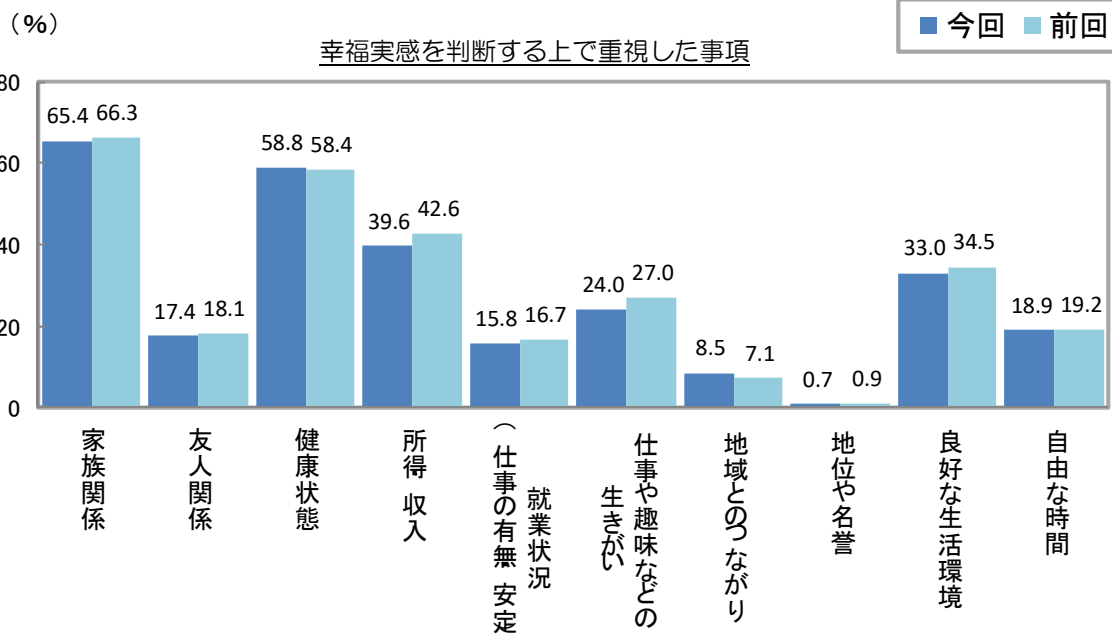
幸福実感を判断する上で重視した基準は、「将来への期待・不安」(64.1%)、「自分の理想との比較」(61.0%)の2項目が多くなっており、前回調査からほぼ横ばいとなっています。

幸福実感を判断する上で重視した基準



(3) 幸福実感を判断する上で重視した事項

幸福実感を判断する上で重視した事項は「家族関係」(65.4%)が最も多く、次いで、「健康状態」(58.8%)、「所得・収入」(39.6%)、「良好な生活環境」(33.0%)の順となっています。前回調査と比較すると、全体的にほぼ横ばいとなっています。

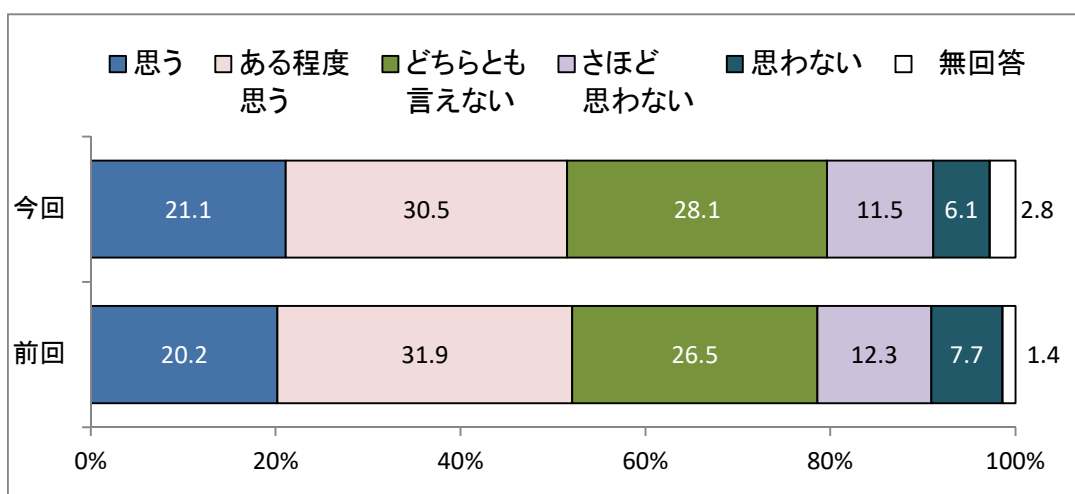


(4) 5年前と比べての現在の幸福実感

5年前と比べて幸せになっていると思うかについては、「ある程度思う」(30.5%)が最も多く、「思う」(21.1%)と合わせ51.6%と半数以上を占めています。なお、前回調査は52.1%でした。

「さほど思わない」(11.5%)と「思わない」(6.1%)を合わせると17.6%となっています。なお、前回調査は20.0%でした。

5年前と比べての現在の幸福実感



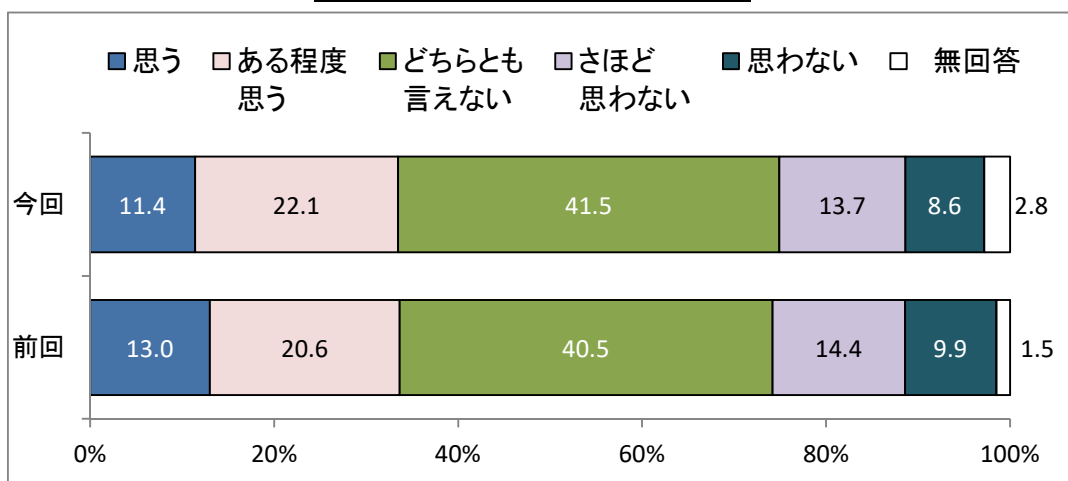
(5) 現在と比べて5年後の幸福実感の予測

5年後は今より幸せになっていると思うかについては、「どちらとも言えない」(41.5%)が最も多くなっています。

「思う」(11.4%)と「ある程度思う」(22.1%)を合わせると、33.5%となっています。なお、前回調査は33.6%でした。

「さほど思わない」(13.7%)と「思わない」(8.6%)を合わせると22.3%となっています。なお、前回調査は24.3%でした。

現在と比べて5年後の幸福実感の予測



(6) 福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い

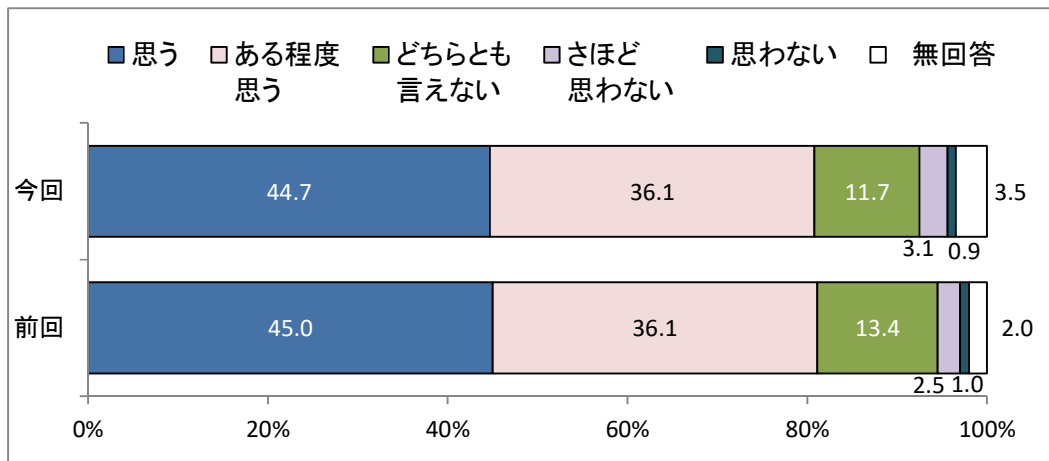
福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合いについて、「思う」(44.7%)が最も多く、「ある程度思う」(36.1%)と合わせた『肯定的回答』は80.8%と8割を占めています。なお、前回調査は81.1%でした。

また、「さほど思わない」(3.1%)と「思わない」(0.9%)を合わせた『否定的回答』は4.0%となっています。なお、前回調査は3.5%でした。

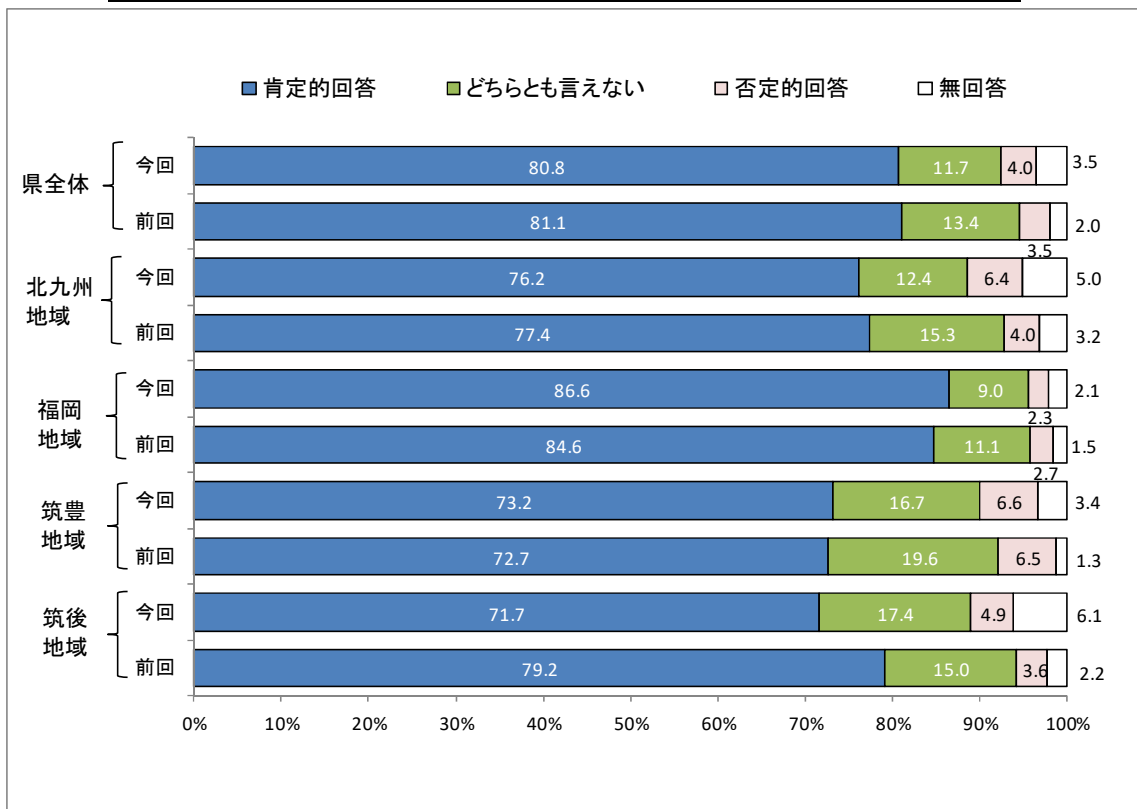
前回調査と比較すると、『肯定的回答』と『否定的回答』の割合はほぼ横ばいとなっています。

地域別にみると、『肯定的回答』は、北九州地域76.2%、福岡地域86.6%、筑豊地域73.2%、筑後地域71.7%となっています。

福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い



福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思う度合い(地域別)



2. 県の施策について

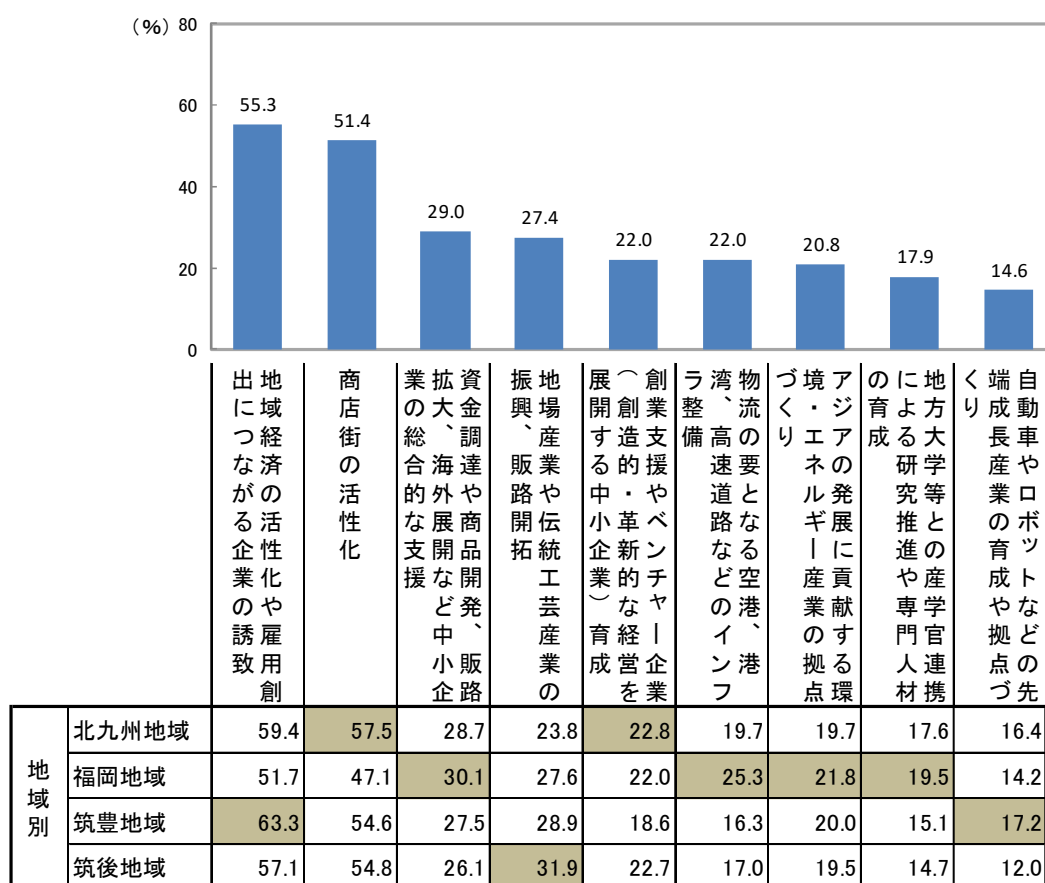
☆ 県政の各分野において、行政に対して力を入れてほしいこと ☆

(1) 商工業の振興

県全体では「地域経済の活性化や雇用創出につながる企業の誘致」(55.3%)が最も多く、次いで、「商店街の活性化」(51.4%)、「資金調達や商品開発、販路拡大、海外展開など中小企業の総合的な支援」(29.0%)、「地場産業や伝統工芸産業の振興、販路開拓」(27.4%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「商店街の活性化」、福岡地域では「物流の要となる空港、港湾、高速道路などのインフラ整備」、筑豊地域では「地域経済の活性化や雇用創出につながる企業の誘致」、筑後地域では、「地場産業や伝統工芸産業の振興、販路開拓」が他地域と比較して高くなっています。

商工業の振興



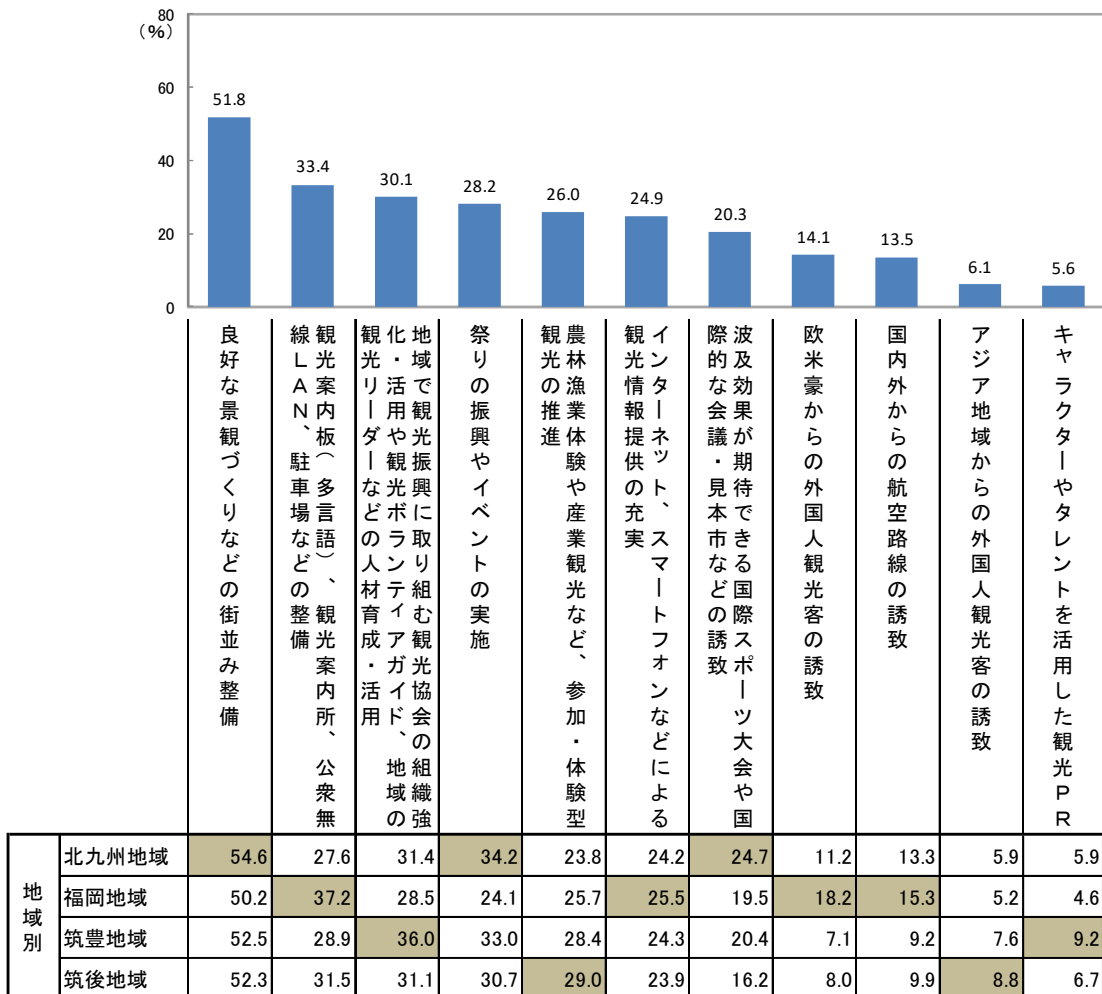
■は4地域の中で最も高い値の地域

(2) 観光振興

県全体では「良好な景観づくりなどの街並み整備」(51.8%)が最も多く、次いで、「観光案内板(多言語)、観光案内所、公衆無線LAN、駐車場などの整備」(33.4%)、「地域で観光振興に取り組む観光協会の組織強化・活用や観光ボランティアガイド、地域の観光リーダーなどの人材育成・活用」(30.1%)、「祭りの振興やイベントの実施」(28.2%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「波及効果が期待できる国際スポーツ大会や国際的な会議・見本市などの誘致」、福岡地域では「観光案内板(多言語)、観光案内所、公衆無線LAN、駐車場などの整備」や「欧米豪からの外国人観光客の誘致」、筑豊地域では「地域で観光振興に取り組む観光協会の組織強化・活用や観光ボランティアガイド、地域の観光リーダーなどの人材育成・活用」が他地域と比較して高くなっています。

観光振興



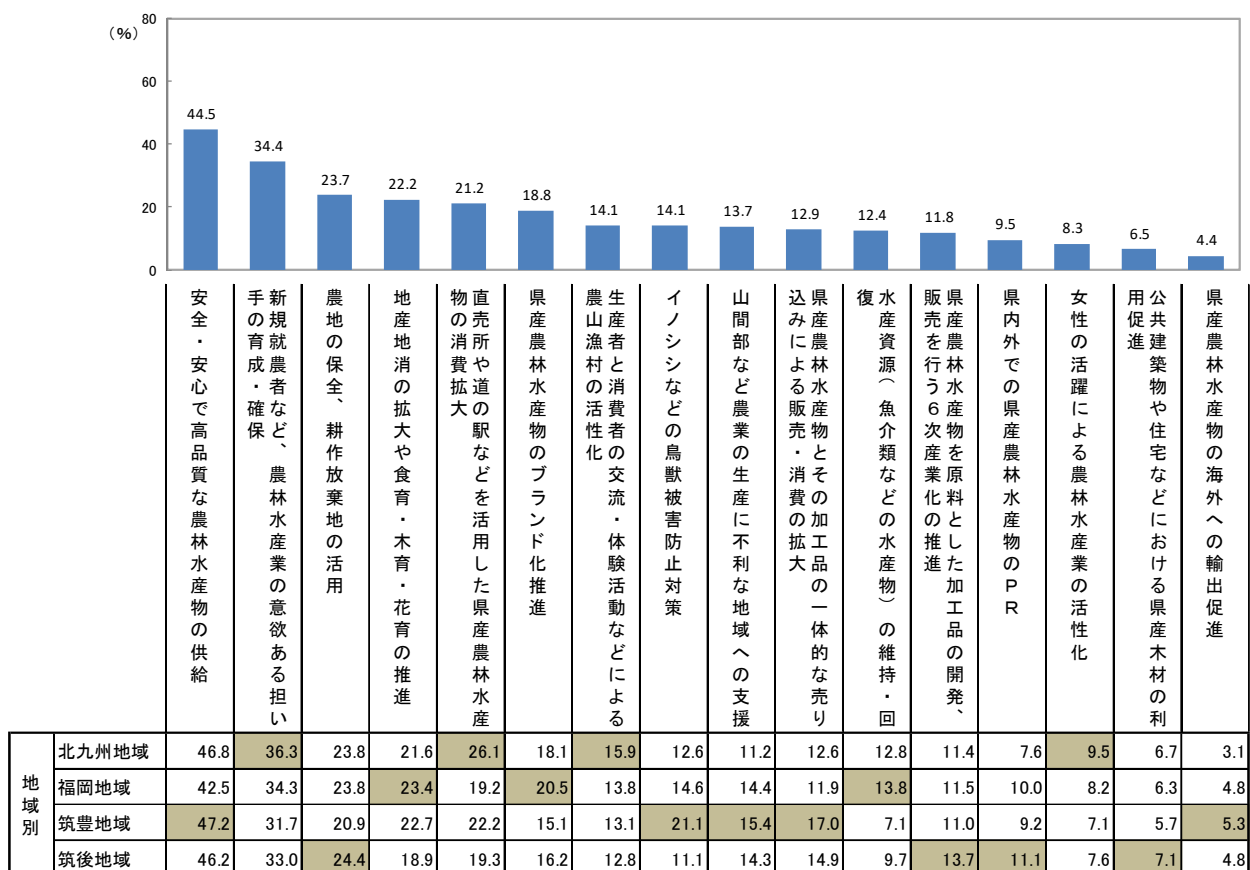
■ は4地域の中で最も高い値の地域

(3) 農林水産振興

県全体では「安全・安心で高品質な農林水産物の供給」(44.5%)が最も多く、次いで、「新規就農者など、農林水産業の意欲ある担い手の育成・確保」(34.4%)、「農地の保全、耕作放棄地の活用」(23.7%)、「地産地消の拡大や食育・木育・花育の推進」(22.2%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「直売所や道の駅などを活用した県産農林水産物の消費拡大」、福岡地域では「県産農林水産物のブランド化推進」、筑豊地域では「イノシシなどの鳥獣被害防止対策」、筑後地域では「県産農林水産物を原料とした加工品の開発、販売を行う6次産業化の推進」が他地域と比較して高くなっています。

農林水産振興



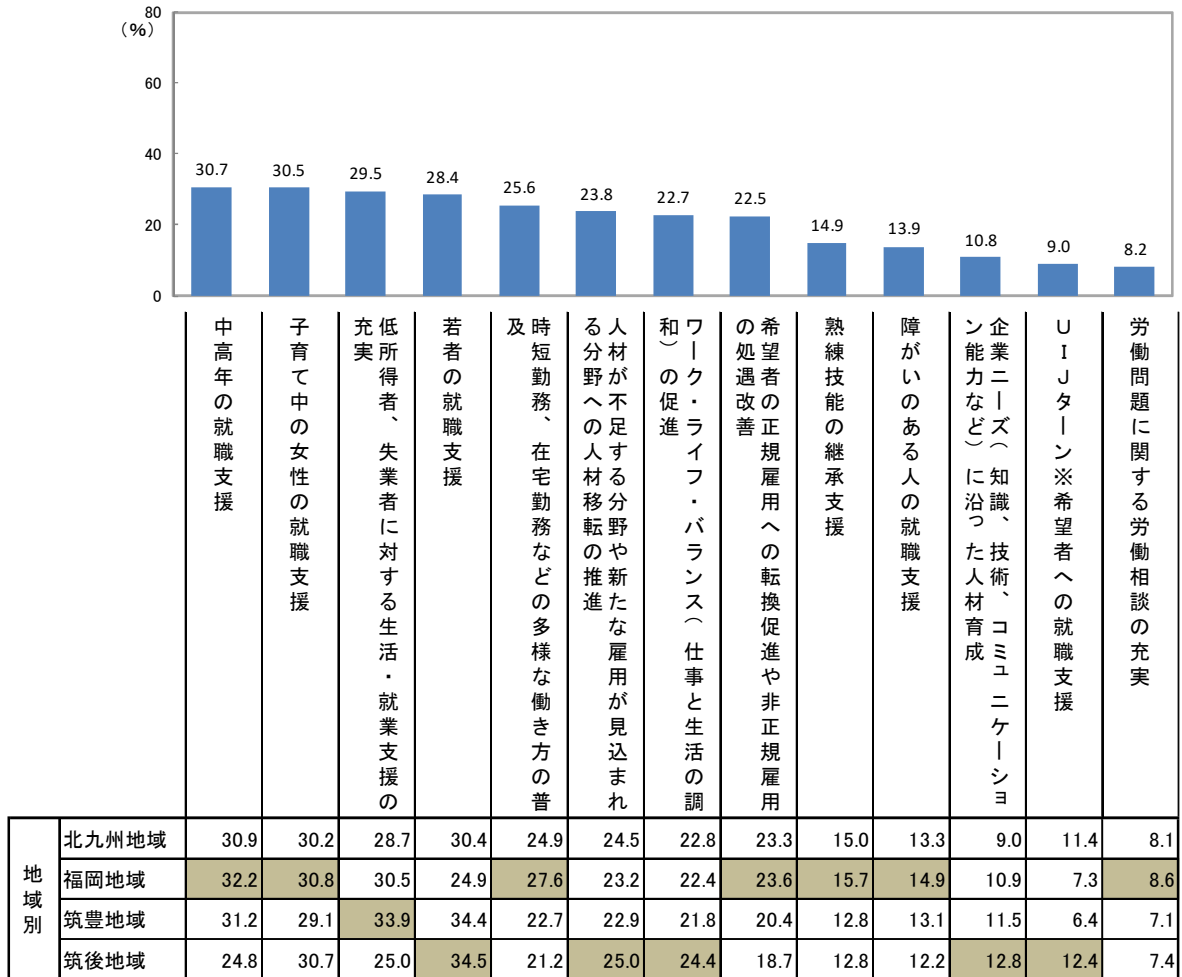
■は4地域の中で最も高い値の地域

(4) 雇用対策

県全体では「中高年の就職支援」(30.7%)が最も多く、次いで、「子育て中の女性の就職支援」(30.5%)、「低所得者、失業者に対する生活・就業支援の充実」(29.5%)、「若者の就職支援」(28.4%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「時短勤務、在宅勤務などの多様な働き方の普及」や「障がいのある人の就職支援」、筑豊地域では「低所得者、失業者に対する生活・就業支援の充実」、筑後地域では「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の促進」が他地域と比較して高くなっています。

雇用対策



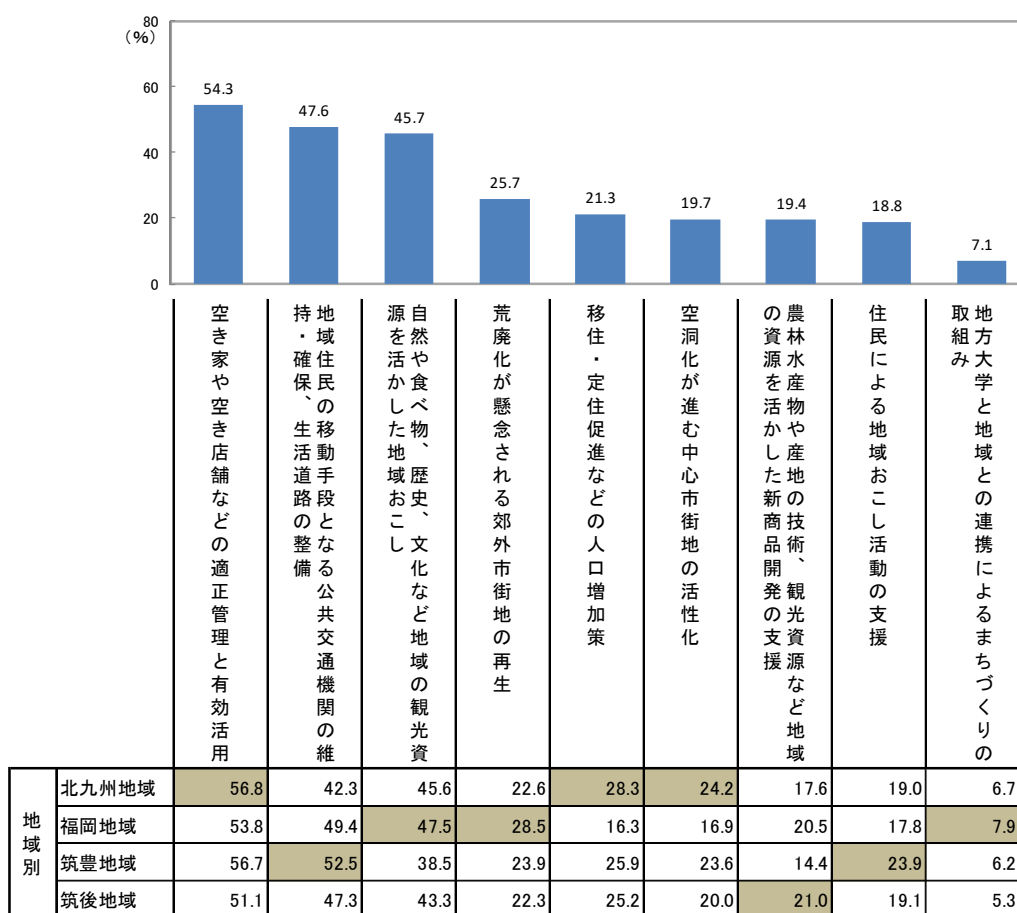
■は4地域の中で最も高い値の地域

(5) 地域振興

県全体では「空き家や空き店舗などの適正管理と有効活用」(54.3%)が最も多く、次いで、「地域住民の移動手段となる公共交通機関の維持・確保、生活道路の整備」(47.6%)、「自然や食べ物、歴史、文化など地域の観光資源を活かした地域おこし」(45.7%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「移住・定住促進などの人口増加策」、福岡地域では「荒廃化が懸念される郊外市街地の再生」、筑豊地域では「地域住民の移動手段となる公共交通機関の維持・確保、生活道路の整備」や「住民による地域おこし活動の支援」が他地域と比較して高くなっています。

地域振興



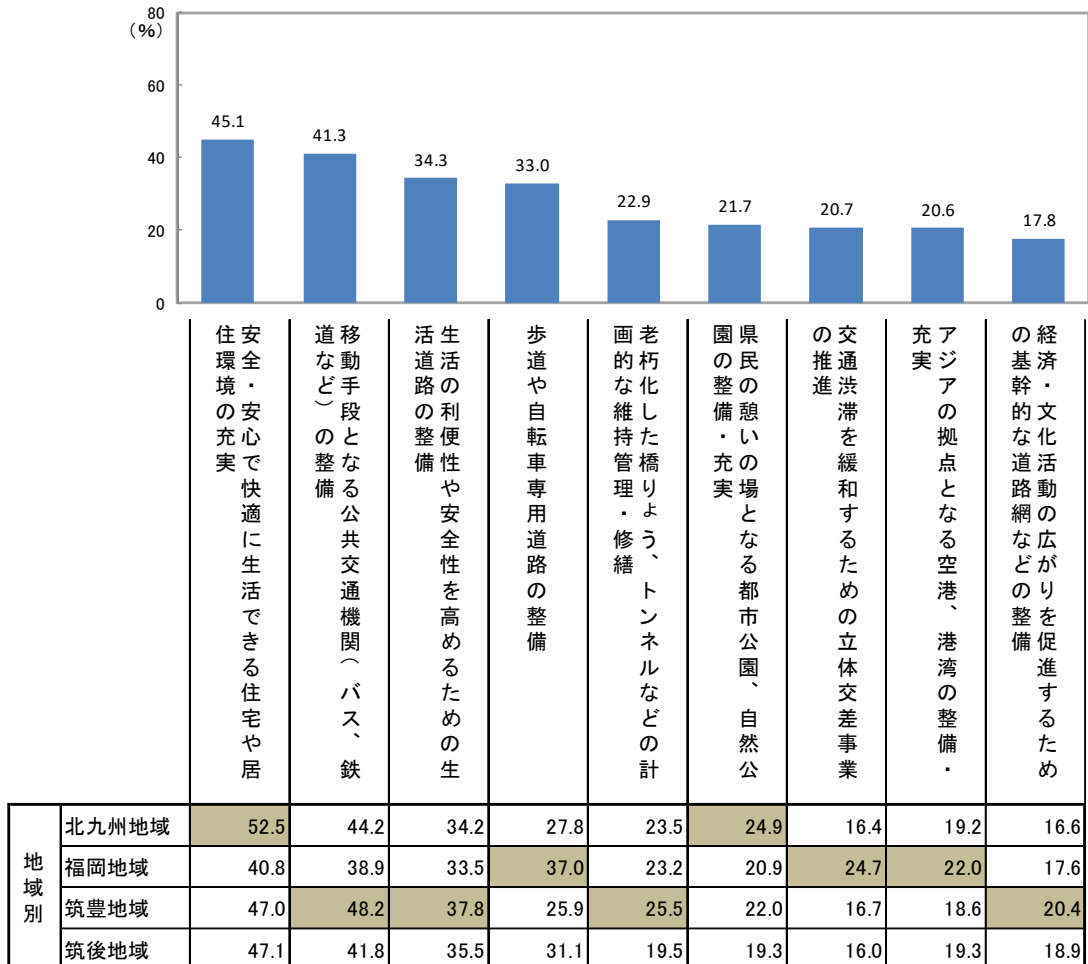
■は4地域の中で最も高い値の地域

(6) インフラ・社会基盤整備

県全体では「安全・安心で快適に生活できる住宅や居住環境の充実」(45.1%)が最も多く、次いで、「移動手段となる公共交通機関(バス、鉄道など)の整備」(41.3%)、「生活の利便性や安全性を高めるための生活道路の整備」(34.3%)、「歩道や自転車専用道路の整備」(33.0%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「安全・安心で快適に生活できる住宅や居住環境の充実」、福岡地域では「歩道や自転車専用道路の整備」や「交通渋滞を緩和するための立体交差事業の推進」、筑豊地域では「移動手段となる公共交通機関(バス、鉄道など)の整備」が他地域と比較して高くなっています。

インフラ・社会基盤整備



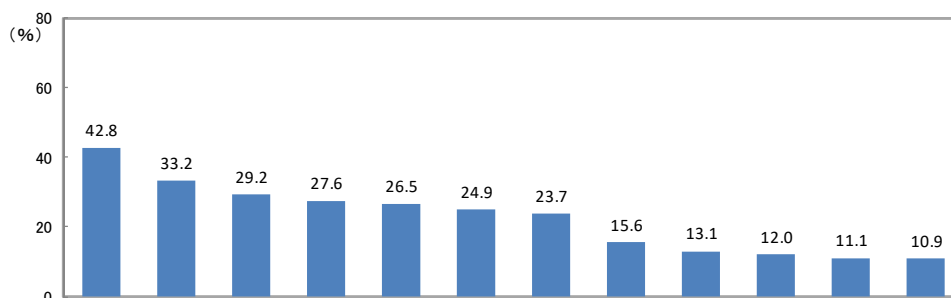
■は4地域の中で最も高い値の地域

(7) 子育て支援

県全体では「子育てをしながら働き続けられる職場環境づくり」(42.8%)が最も多く、次いで、「保育サービスの充実(延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど)」(33.2%)、「虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援」(29.2%)、「犯罪や事故からの子どもの安全確保」(27.6%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援」、福岡地域では「待機児童の解消(保育所の整備や保育士の確保など)」、筑豊地域では「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」、筑後地域では「子育て家庭の経済的負担の軽減」が他地域と比較して高くなっています。

子育て支援



		子育てをしながら働き続けられる職場環境づくり	放課後児童クラブなどの充実(延長保育、病児保育、の支援)	虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもへの支援	犯罪や事故からの子どもの安全確保	待機児童の解消(保育所の整備や保育士の確保など)	妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実	子育て家庭の経済的負担の軽減	社会全体で子育てを応援する気運の醸成	男性が子育てや家事に関わるための意識啓発	子育て中の女性の就職支援	ひとり親家庭の自立支援	地域における子育ての情報提供や相談体制の整備
地域別	北九州地域	46.3	32.8	36.1	31.1	23.0	24.5	21.6	14.0	11.9	11.4	12.4	9.5
	福岡地域	40.2	34.5	25.9	24.9	31.2	24.3	23.8	15.9	14.4	12.3	10.9	11.3
	筑豊地域	45.2	30.0	31.7	30.5	19.5	29.8	20.6	16.5	11.0	12.6	10.8	11.2
	筑後地域	45.0	30.9	27.9	29.6	19.5	25.2	27.7	16.6	11.6	11.6	10.3	11.3

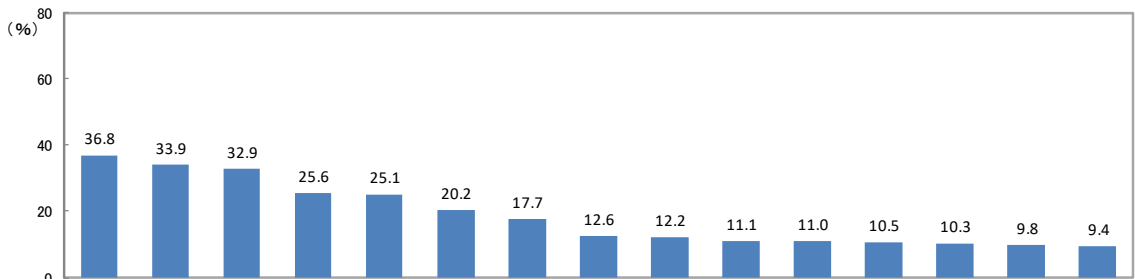
■は4地域の中で最も高い値の地域

(8) 教育

県全体では「いじめや不登校等への対応」(36.8%)が最も多く、次いで、「郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実」(33.9%)、「信頼される教職員の育成」(32.9%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「青少年の非行防止と健全育成」、福岡地域では「自分の人権を守り、他者の人権を守るための人権教育・啓発の推進」や「国際感覚あふれる子ども・若者の育成」、筑豊地域では「いじめや不登校等への対応」や「学校、家庭、地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもを育てる取組みの推進」が他地域と比較して高くなっています。

教 育



地域別	いじめや不登校等への対応	郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実	信頼される教職員の育成	確かな学力、体力向上のための取組みの推進	学校、家庭、地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもを育てる取組みの推進	個性や能力を伸ばす教育の充実	奨学金事業の充実などによる教育機会の確保	自分の人権を守り、他者の人権を守るための人権教育・啓発の推進	国際感覚あふれる子ども・若者の育成	障がいのある子どもたちへの特別支援教育の推進	性や心の健康課題の解消、望ましい食習慣を学ぶための健康教育の充実	学校施設、社会教育施設、スポーツ施設の整備・充実	望ましい職業観・勤労観や技能を身につけるキャリア教育・職業教育の推進	青少年の非行防止と健全育成	実体験を重視した教育の推進
北九州地域	36.6	35.6	35.2	26.6	27.8	21.1	16.4	9.0	10.9	10.5	10.2	10.5	9.7	12.4	8.8
福岡地域	35.4	32.2	33.3	24.9	23.4	19.0	19.0	15.1	13.4	11.9	11.1	10.9	10.9	9.0	9.6
筑豊地域	42.0	34.6	31.2	26.1	30.0	20.9	14.0	12.8	11.2	10.1	11.0	8.3	8.5	7.8	8.9
筑後地域	39.3	36.3	29.2	26.1	24.4	22.7	17.0	9.9	10.7	9.7	12.0	10.5	10.1	9.5	10.1

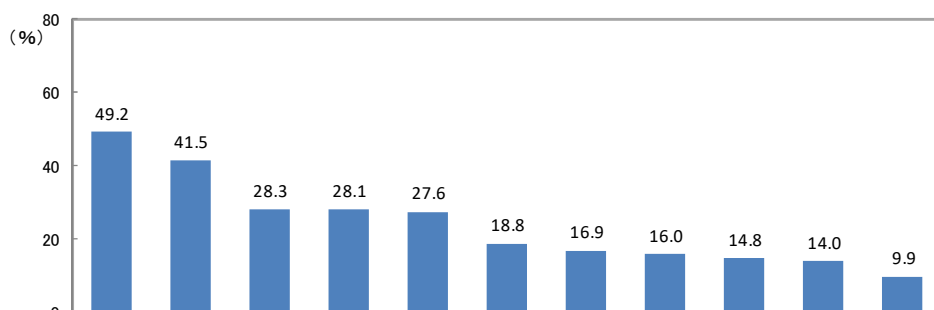
■は4地域の中で最も高い値の地域

(9) 若者

県全体では「若者の正規雇用への就職支援」(49.2%)が最も多く、次いで、「若者が定住できる生活環境の整備」(41.5%)、「高校や大学等の新規学卒者の就職支援」(28.3%)、「インターンシップ(就業体験)などの社会体験の機会の充実」(28.1%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「異業種や海外企業との交流などによる人材育成」、筑豊地域では「早期離職防止のための取組みの充実」や「社会的企業(社会問題を解決するために活動する企業等)やNPO(民間の非営利組織)などへの就職紹介、支援」、筑後地域では「高校や大学等の新規学卒者の就職支援」が他地域と比較して高くなっています。

若 者



地域別	若者の正規雇用への就職支援	若者が定住できる生活環境の整備	高校や大学等の新規学卒者の就職支援	インターンシップ(就業体験)などの社会体験の機会の充実	ひきこもりやニートの自立支援	早期離職防止のための取組みの充実	異業種や海外企業との交流などによる人材育成	若者の海外留学の支援や海外派遣研修の実施	挑戦する機会の提供	民間資金を活用した起業や新たなビジネスに	出会い・結婚支援の充実	社会的企業(社会問題を解決するために活動する企業等)やNPO(民間の非営利組織)などへの就職紹介、支援
北九州地域	50.4	44.4	29.7	29.0	26.4	17.8	15.7	16.2	14.0	13.3	9.7	
福岡地域	48.5	38.1	26.2	28.9	27.6	19.2	19.0	17.4	15.7	13.0	10.3	
筑豊地域	50.2	45.9	30.5	23.9	28.9	21.6	12.2	12.8	13.5	16.5	12.6	
筑後地域	49.4	46.4	32.4	26.1	28.6	17.4	14.1	12.6	13.4	17.4	7.8	

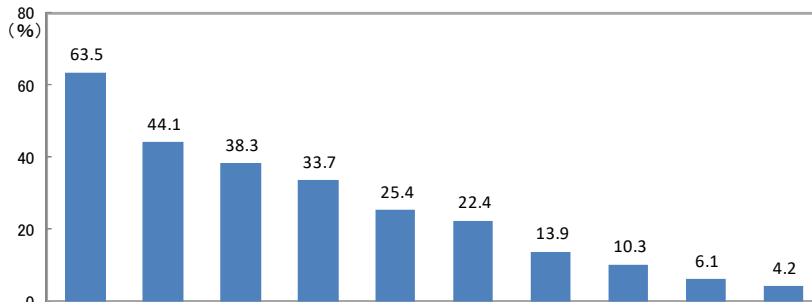
■ は4地域の中で最も高い値の地域

(10) 女性

県全体では「女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり」(63.5%)が最も多く、次いで、「子育て支援の充実」(44.1%)、「勤務時間・勤務体制の見直しなどワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み」(38.3%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「職場や地域などにおける男女の均等な機会と待遇の確保」、筑豊地域では「女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり」や「職場や地域などにおける指導的地位(役員、管理職、自治会長など)への女性の進出促進」、「さまざまな分野で活躍している女性ロールモデル(模範となる人)の紹介」が他地域と比較して高くなっています。

女性



地域別	女性が結婚や出産をしても働き続けることができる職場環境づくり	子育て支援の充実	勤務時間・勤務体制の実現に向けた取組み	職場や地域などにおける男女の均等な機会と待遇の確保	セクハラ、性暴力の防止対策、DV(夫婦・恋人間の暴力)、性暴力の防止対策、被害者への支援	意識の払しょく	「男は仕事、女は家庭(家事、子育て、介護の担い手)」といった、性別による役割分担	職場や地域などにおける指導的地位(役員、管理職、自治会長など)への女性の進出促進	男性への男女共同参画の意識啓発	女性の起業、キャリア形成支援	さまざまな分野で活躍している女性ロールモデル(模範となる人)の紹介
北九州地域	63.4	47.0	34.4	38.0	24.5	19.5	14.7	9.7	5.9	4.0	
福岡地域	63.0	42.3	40.8	31.2	26.6	23.0	13.8	10.5	5.4	4.0	
筑豊地域	66.1	41.5	31.7	35.6	28.0	24.5	16.7	10.6	8.0	6.2	
筑後地域	64.1	46.8	39.1	34.7	21.8	23.9	11.6	10.5	7.4	4.4	

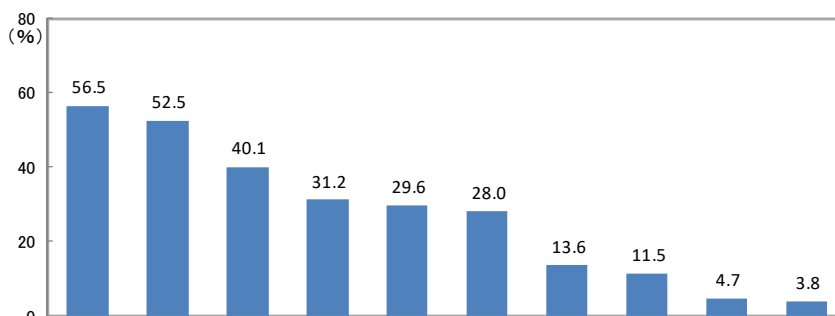
■は4地域の中で最も高い値の地域

(11) 高齢者・障がいのある人

県全体では「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援（在宅医療、介護予防、生活支援など）」（56.5%）が最も多く、次いで、「高齢者・障がいのある人を介護する家族の負担軽減」（52.5%）、「高齢者や障がいのある人が快適に暮らせるまちづくり（住宅の整備や公共交通の充実、バリアフリーなど）」（40.1%）の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「福祉・介護サービス人材の育成・確保」、筑豊地域では「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援（在宅医療、介護予防、生活支援など）」や「高齢者・障がいのある人を介護する家族の負担軽減」、「高齢者や障がいのある人が快適に暮らせるまちづくり（住宅の整備や公共交通の充実、バリアフリーなど）」が他地域と比較して高くなっています。

高齢者・障がいのある人



	住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための支援（在宅医療、介護予防、生活支援など）	高齢者・障がいのある人を介護する家族の負担軽減	高齢者や障がいのある人が快適に暮らせるまちづくり（住宅の整備や公共交通の充実、バリアフリーなど）	一人暮らしの高齢者の見守り活動の推進	高齢者の再就職・社会参加支援	福祉・介護サービス人材の育成・確保	障がいのある人の就職支援	障がいのある人の社会参加促進と収入向上	高齢者・障がいのある人の権利擁護の推進	障がいのある人がスポーツに親しむことができる環境づくりやスポーツ指導者の養成と活用促進
北九州地域	57.2	52.7	41.3	31.4	30.9	26.8	13.3	12.6	4.8	4.5
福岡地域	55.4	52.5	39.5	31.2	30.1	29.3	14.4	10.5	4.8	3.1
筑豊地域	59.4	53.9	43.1	29.6	29.1	24.1	13.1	12.8	4.6	3.4
筑後地域	57.6	51.5	38.4	32.1	26.1	27.5	11.6	12.6	4.4	4.8

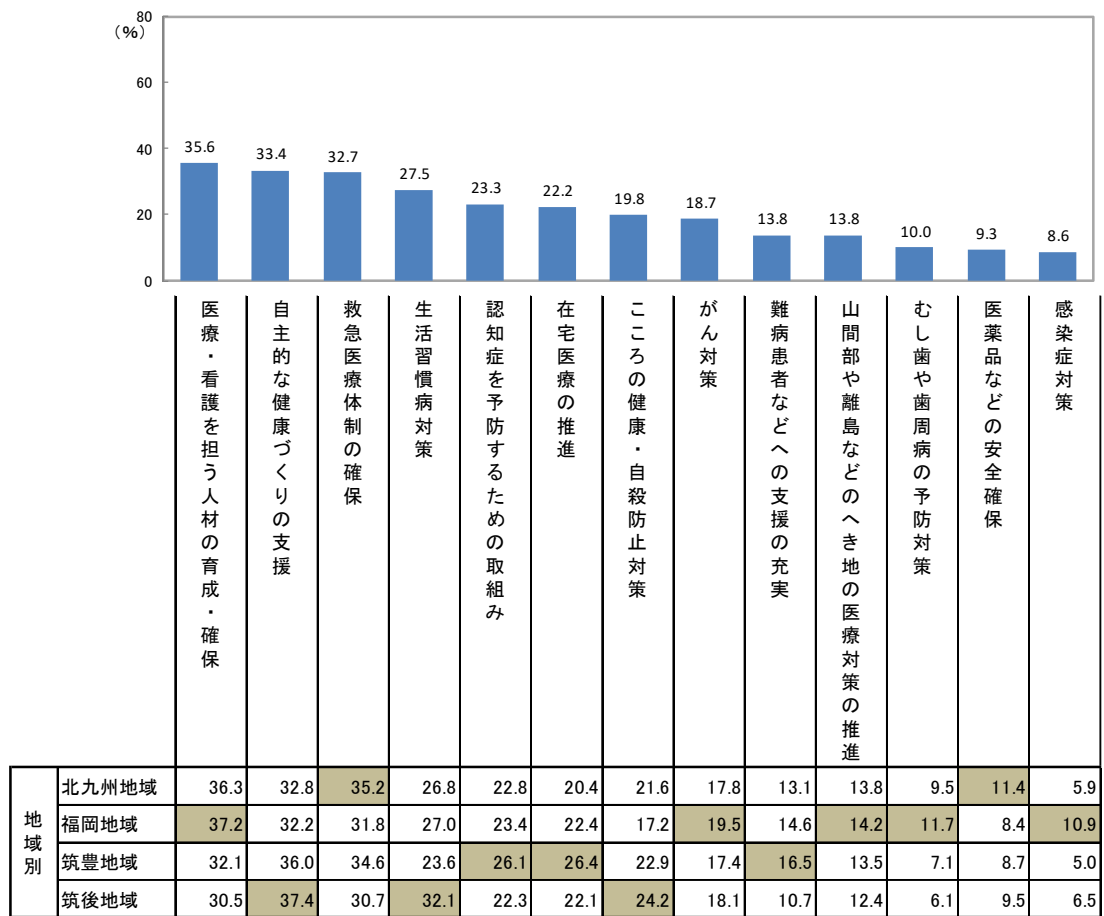
■は4地域の中で最も高い値の地域

(12) 保健・医療

県全体では「医療・看護を担う人材の育成・確保」(35.6%)が最も多く、次いで、「自主的な健康づくりの支援」(33.4%)、「救急医療体制の確保」(32.7%)の順となっています。

地域別にみると、福岡地域では「感染症対策」、筑豊地域では「認知症を予防するための取組み」や「在宅医療の推進」、筑後地域では「生活習慣病対策」が他地域と比較して高くなっています。

保健・医療



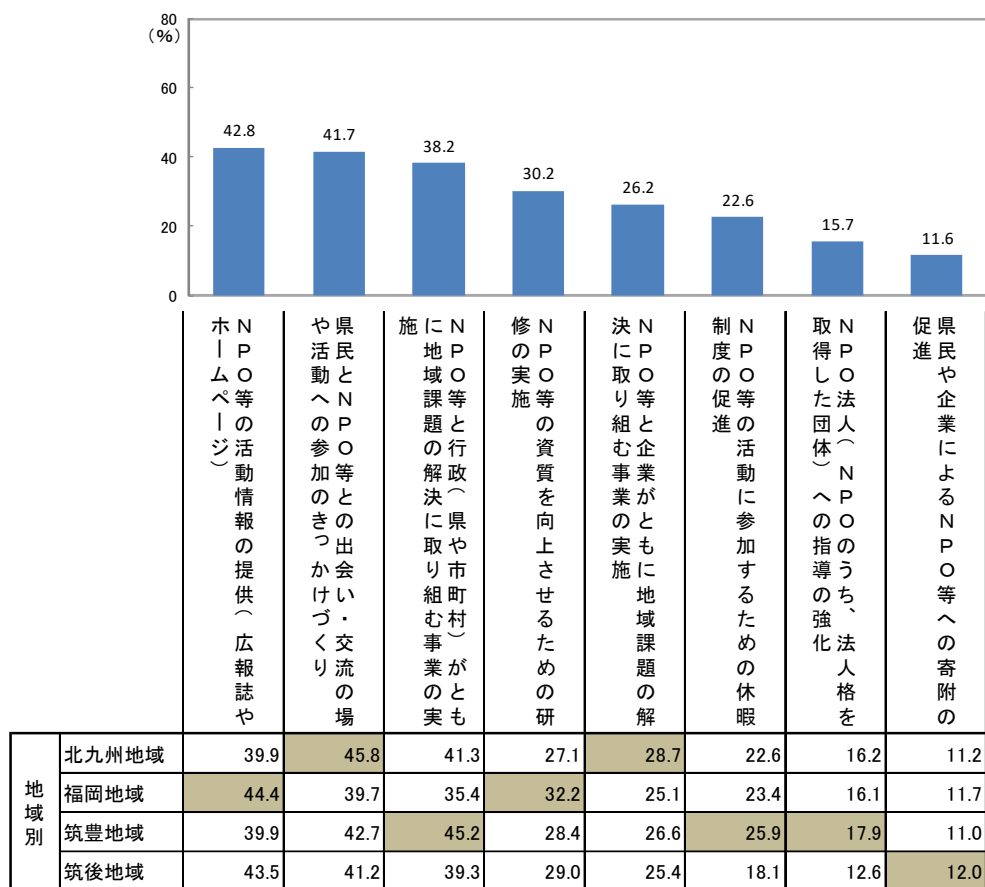
■は4地域の中で最も高い値の地域

(13) NPO・ボランティア

県全体では「NPO等の活動情報の提供（広報誌やホームページ）」（42.8%）が最も多く、次いで、「県民とNPO等との出会い・交流の場や活動への参加のきっかけづくり」（41.7%）、「NPO等と行政（県や市町村）がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施」（38.2%）の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「県民とNPO等との出会い・交流の場や活動への参加のきっかけづくり」、福岡地域では「NPO等の資質を向上させるための研修の実施」、筑豊地域では「NPO等と行政（県や市町村）がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施」や「NPO法人（NPOのうち、法人格を取得した団体）への指導の強化」が他地域と比較して高くなっています。

NPO・ボランティア



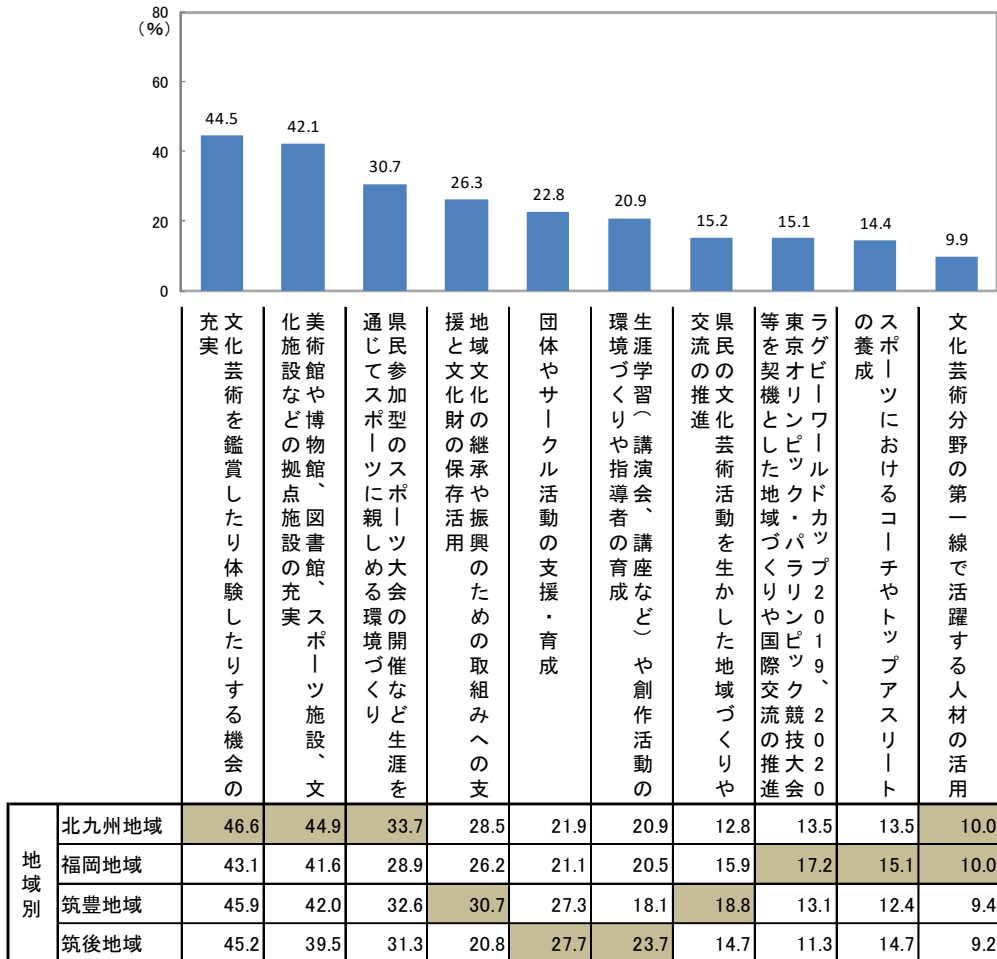
■は4地域の中で最も高い値の地域

(14) 文化・スポーツ

県全体では「文化芸術を鑑賞したり体験したりする機会の充実」(44.5%)が最も多く、次いで、「美術館や博物館、図書館、スポーツ施設、文化施設などの拠点施設の充実」(42.1%)、「県民参加型のスポーツ大会の開催など生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくり」(30.7%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「美術館や博物館、図書館、スポーツ施設、文化施設などの拠点施設の充実」、福岡地域では「ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機とした地域づくりや国際交流の推進」、筑豊地域では「県民の文化芸術活動を生かした地域づくりや交流の推進」、筑後地域では「生涯学習(講演会、講座など)や創作活動の環境づくりや指導者の育成」が他地域と比較して高くなっています。

文化・スポーツ



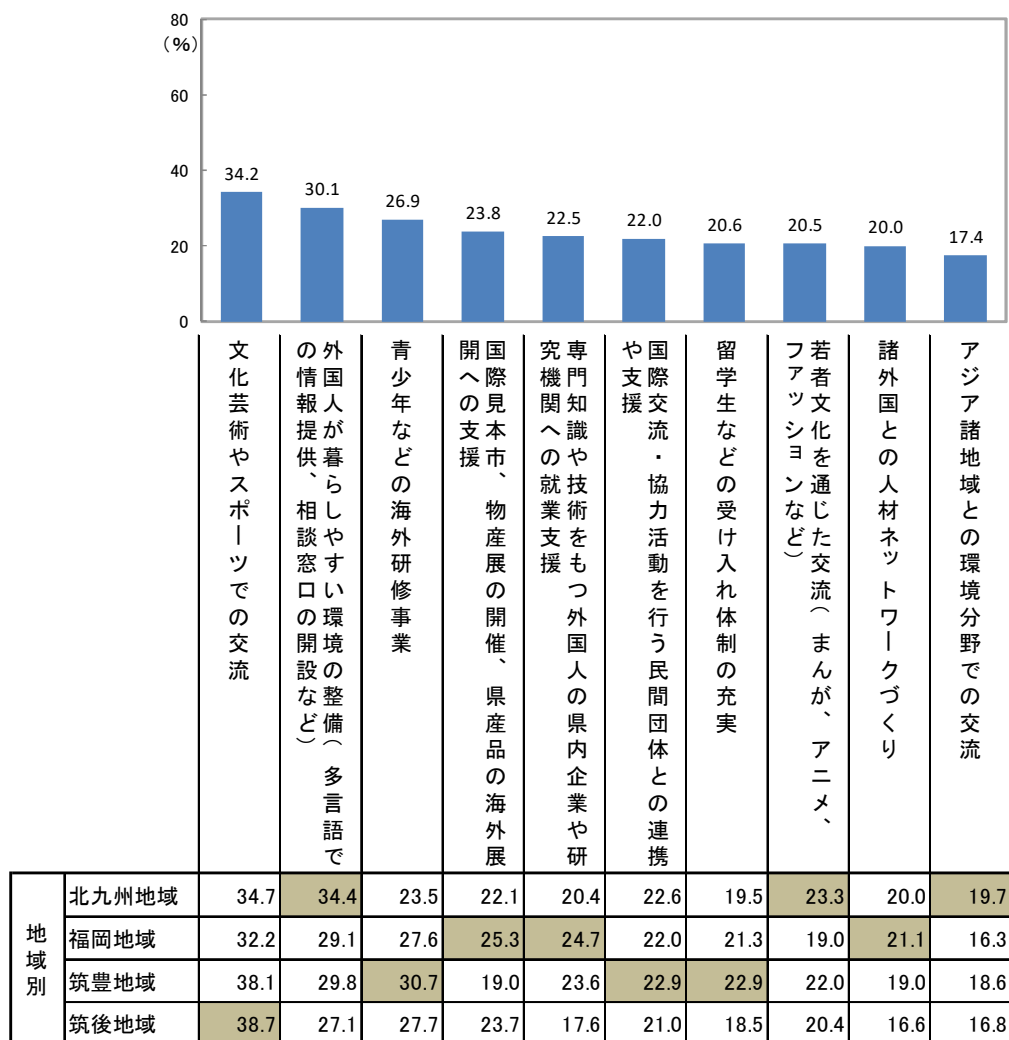
■は4地域の中で最も高い値の地域

(15) 国際交流

県全体では「文化芸術やスポーツでの交流」(34.2%)が最も多く、次いで、「外国人が暮らしやすい環境の整備(多言語での情報提供、相談窓口の開設など)」(30.1%)、「青少年などの海外研修事業」(26.9%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「外国人が暮らしやすい環境の整備(多言語での情報提供、相談窓口の開設など)」、福岡地域では「国際見本市、物産展の開催、県産品の海外展開への支援」、筑豊地域では「青少年などの海外研修事業」や「留学生などの受け入れ体制の充実」が他地域と比較して高くなっています。

国際交流

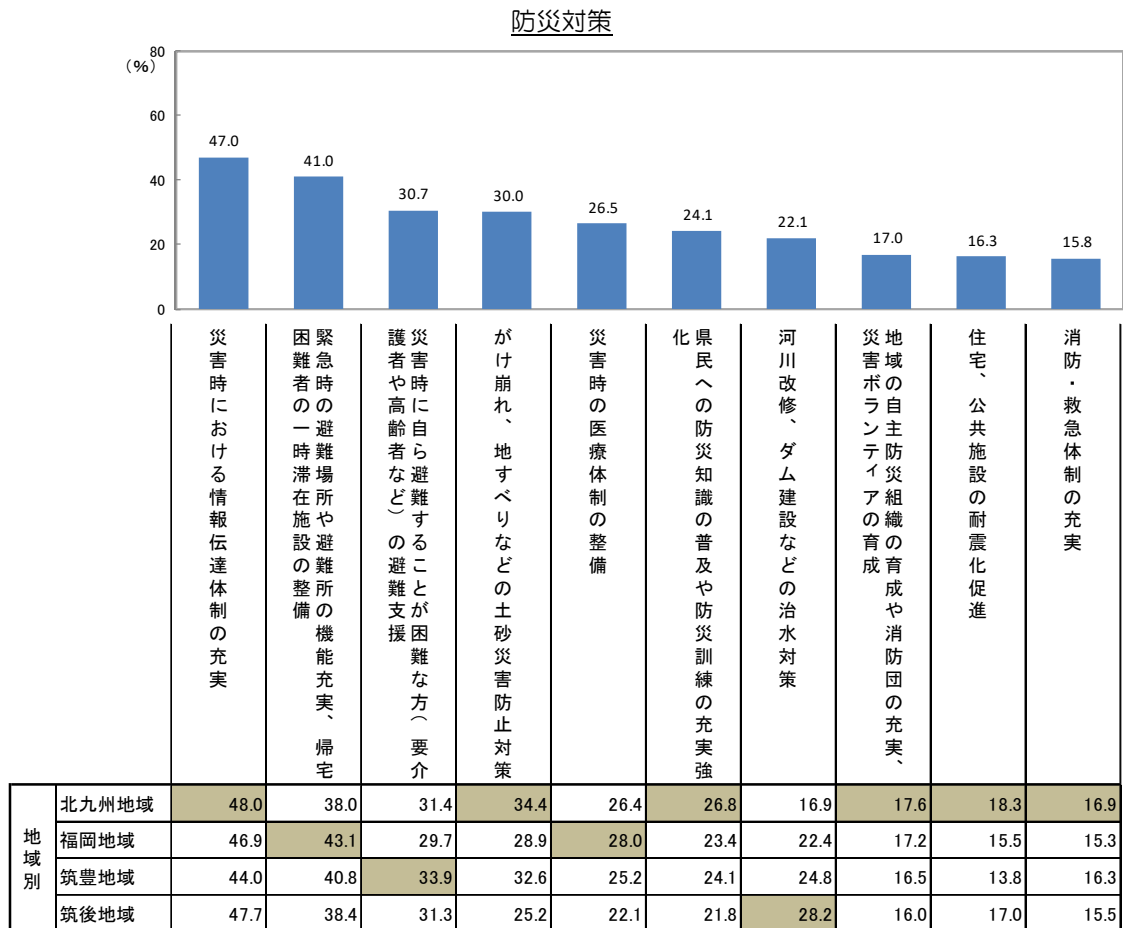


■は4地域の中で最も高い値の地域

(16) 防災対策

県全体では「災害時における情報伝達体制の充実」(47.0%)が最も多く、次いで、「緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備」(41.0%)、「災害時に自ら避難することが困難な方(要介護者や高齢者など)の避難支援」(30.7%)、「がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害防止対策」(30.0%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「県民への防災知識の普及や防災訓練の充実強化」、福岡地域では「緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備」、筑豊地域では「災害時に自ら避難することが困難な方(要介護者や高齢者など)の避難支援」、筑後地域では「河川改修、ダム建設などの治水対策」が他地域と比較して高くなっています。



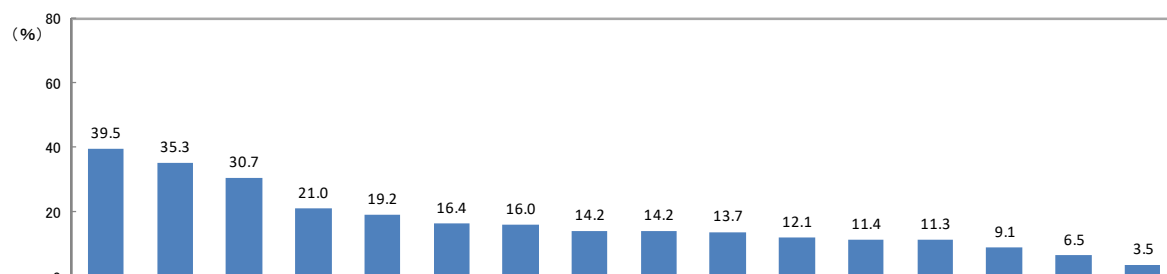
■は4地域の中で最も高い値の地域

(17) 防犯・事故対策

県全体では「子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進」(39.5%)が最も多く、次いで、「飲酒運転の取締り、飲酒運転撲滅運動の推進」(35.3%)、「暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策」(30.7%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策」、福岡地域では「交通安全教育や交通規制の見直し、交通取締りなどの交通安全活動の推進」、筑豊地域では「子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進」や「パトカーや制服警察官によるパトロール活動」が他地域と比較して高くなっています。

防犯・事故対策



地域別	子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進	飲酒運転の取締り、飲酒運転撲滅運動の推進	暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策	パトカーや制服警察官によるパトロール活動	ニセ電話詐欺や窃盗などの身近な犯罪の取締り	悪質商法などの消費者被害に関する情報提供や消費生活相談体制の充実	青少年の非行防止と健全育成	防犯に関する情報提供の充実	インターネットなどのサイバー空間の安全確保に向けた取組みの推進	殺人や強盗など重要凶悪事件の徹底検挙	交通安全教育や交通規制の見直し、交通取締りなどの交通安全活動の推進	薬物乱用防止対策の推進	食品の安全・安心の確保	自主的な防犯活動をしている住民・団体への支援	再犯防止の推進	テロ対策の推進
北九州地域	40.4	36.8	35.2	19.5	22.3	18.8	16.2	12.6	13.3	13.3	10.7	10.7	10.5	8.1	6.2	1.9
福岡地域	38.1	34.9	29.3	22.0	16.7	16.1	15.5	14.6	15.3	14.6	13.6	11.9	11.3	9.0	7.1	4.8
筑豊地域	46.1	37.8	29.6	25.0	19.3	13.1	13.8	13.1	10.3	14.2	10.3	11.9	10.6	9.6	6.4	1.8
筑後地域	39.7	32.8	29.0	18.3	22.5	15.5	18.7	15.5	13.9	10.5	10.3	10.7	12.8	10.9	4.8	2.3

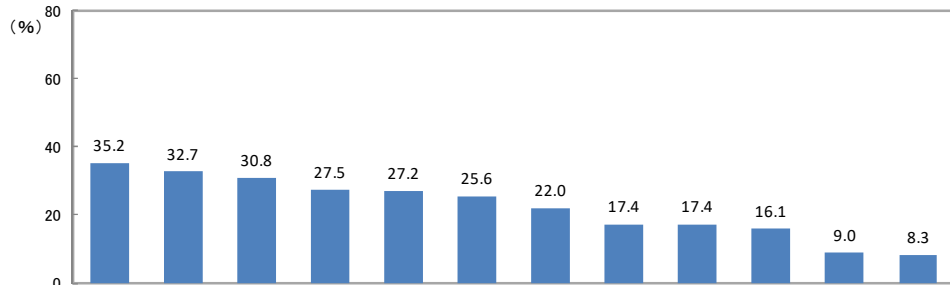
■は4地域の中で最も高い値の地域

(18) 環境

県全体では「大気汚染、水質汚濁、生活排水、土壌汚染、騒音、悪臭などへの対策」(35.2%)が最も多く、次いで、「海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染(PM2.5、黄砂など)への対策」(32.7%)、「ごみの排出抑制、資源化・減量化などリサイクルの推進」(30.8%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染(PM2.5、黄砂など)への対策」、福岡地域では「動物愛護の推進」、筑豊地域では「廃棄物の不法投棄対策の強化」、筑後地域では「気候変動の影響への適応(熱中症予防、高温に強い品種の開発等)」が他地域と比較して高くなっています。

環 境



	騒音、悪臭などへの対策	海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染(PM2.5、黄砂など)への対策	ごみの排出抑制、資源化・減量化などリサイクルの推進	美しい田園風景や、自然、文化などを活かした良好な街並みの保全	エネルギー推進、公共交通の利用促進等	エネルギー(太陽光、水力など)の普及	豊かな自然環境や生物多様性の保全・再生	気候変動の影響への適応(熱中症予防、高温に強い品種の開発等)	公益的機能(水や空気の供給、緑化の推進)	廃棄物の不法投棄対策の強化	動物愛護の推進	環境情報の提供や環境教育の推進、環境保全
北九州地域	34.2	36.1	29.5	29.7	28.3	27.6	23.3	15.9	17.6	15.0	8.1	9.0
福岡地域	36.4	33.9	31.0	26.4	25.9	25.7	21.8	16.5	18.2	15.7	10.3	7.7
筑豊地域	36.7	27.8	31.2	24.5	26.8	22.0	19.7	18.1	17.2	23.6	7.8	9.2
筑後地域	31.7	25.8	32.1	29.6	30.3	23.5	21.8	22.3	14.7	15.5	6.5	8.8

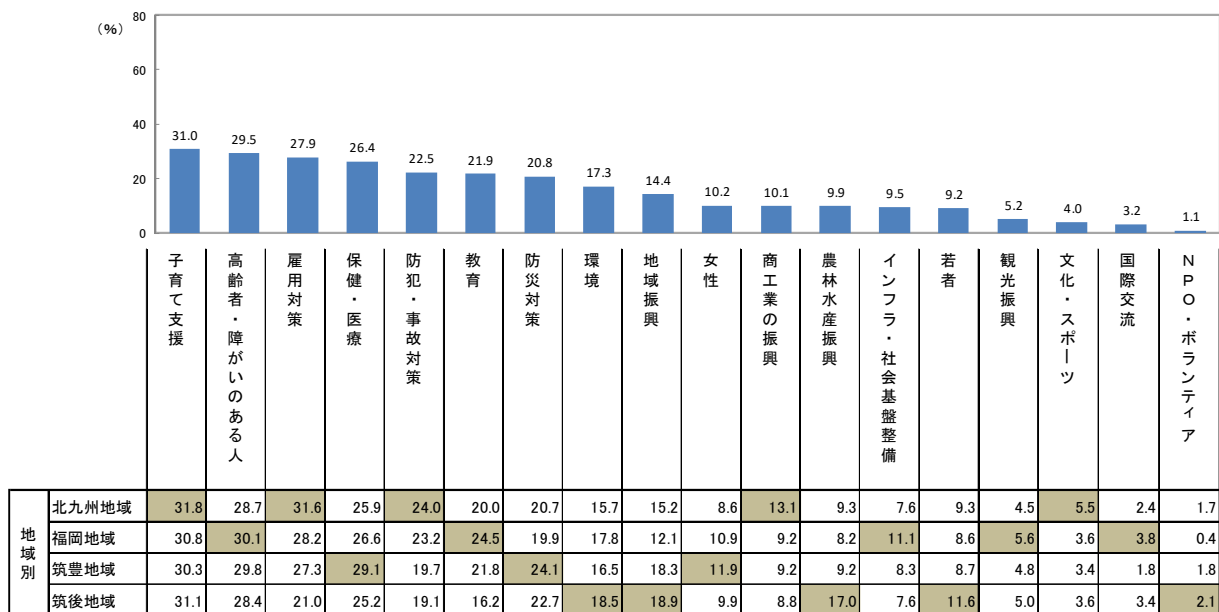
■は4地域の中で最も高い値の地域

(19) 重点分野

県全体では「子育て支援」(31.0%)が最も多く、次いで、「高齢者・障がいのある人」(29.5%)、「雇用対策」(27.9%)、「保健・医療」(26.4%)の順となっています。

地域別にみると、北九州地域では「雇用対策」や「商工業の振興」、福岡地域では「インフラ・社会基盤整備」、筑後地域では「農林水産振興」が他地域と比較して高くなっています。

重点分野



■は4地域の中で最も高い値の地域

3. 自由意見

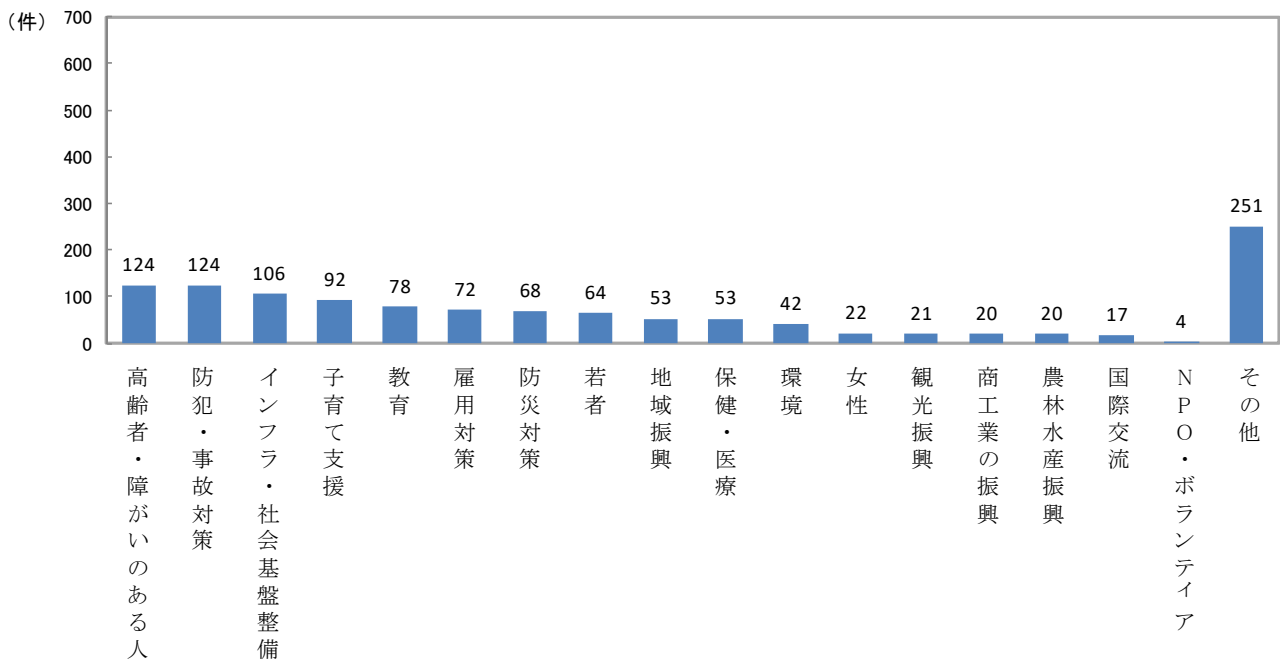
福岡県に期待することや思い描く将来の福岡県の姿について自由に回答してもらったところ、879人の方から、1,231件のご意見が寄せられました。

その内容を分野ごとに分類すると、「高齢者・障がいのある人」、「防犯・事故対策」、「インフラ・社会基盤整備」、「子育て支援」などに関する意見が多く、それ以外にも多岐にわたって幅広く意見をいただきました。

また、どの分野にも該当しない「その他」では、「家族・地域との繋がり・絆」、「生活保護・低所得者支援・貧困対策などの弱者対策」、「税金」といった内容について、多くの意見が寄せられました。

以下に、分類した意見の数と、主な内容の一部をご紹介します。

自由意見（福岡県に期待すること、思い描く将来の福岡県の姿）



○高齢者・障がいのある人

- ・公園の整備等、子どもから高齢者まで集まることができるような環境を作ってほしい。
- ・高齢者に対する医療の充実に力を入れてほしい。
- ・高齢者の医療保険、介護保険等の負担金を軽減してほしい。
- ・高齢者や障がいのある方、家族が安心して生活出来るような県になって欲しい。社会福祉に取り組んでいる組織を支援して欲しい。
- ・自動車免許自主返納後の高齢者へのサポート（交通網の整備、免許返納者への優遇措置等）を行ってほしい。
- ・定年後も働ける社会等、高齢化社会に順応してほしい。
- ・老後も安心して生活できるような環境の整備（交通、介護制度等）を行ってほしい。
- ・老老介護や高齢者のひきこもりへの対策を行ってほしい。
- ・高齢者が車がなくても不自由なく生活でき、いきいきとした日々を過ごすことができる社会を実現してほしい。
- ・高齢者の雇用年数の延長、再雇用の機会を増やしてほしい。
- ・障がい者や高齢者の雇用と収入の安定を実現してほしい。

○防犯・事故対策

- ・飲酒運転等の犯罪の撲滅。
- ・覚せい剤等の薬物に関する取り締まりを強化してほしい。
- ・交差点や公園等、防犯カメラを設置してほしい。不審者情報が多いので、抑止力となるはずだ。
- ・最近のテレビのニュース等で、「福岡県」が取り上げられていることがとても多く感じる。犯罪の無い、平和な街づくりを望む。
- ・自殺者ゼロに向けた対策が必要。
- ・世間では福岡県は治安が悪いイメージがあるため、改善が必要。
- ・ドライバーだけでなく、自転車や歩行者も交通マナーの向上が必要。
- ・路上喫煙者への罰則が必要。
- ・早急に取り組むべきは、飲酒運転と性犯罪の撲滅。特に性犯罪が多いことは、県民として本当に恥ずかしく思う。

○インフラ・社会基盤整備

- ・アジアの玄関口として、空港や湾岸部の整備が必要。
- ・車が無くても不便なく生活できる環境を整えてほしい。
- ・高齢になったため、免許を返納したが、公共交通機関が整備されておらず不便を感じることも多いため、改善してほしい。
- ・高齢になると運転が不安になるので、コミュニティバス等が増えると良い。
- ・混雑が少ないスムーズな交通網を整備してほしい。
- ・都心と郊外で交通インフラの充実度の格差が大きいため、改善が必要。
- ・老朽化した橋や道路等の交通インフラを整備してほしい。

○子育て支援

- ・親だけでなく、地域住民みんなで子育てをするという意識づけと環境整備が必要。
- ・子育て世代の賃金を改善してほしい。
- ・子育てに係る手当の拡充や高校まで授業料の無償化を実現してほしい。
- ・女性が働きながら子育てができるように、託児所が併設されている企業や店舗が増えると良い。
- ・保育所の充実等、安心して子供が産める環境を整備してほしい。
- ・安心して出産でき育児に専念できる環境が必要。
- ・今の子ども達が大人になった時に、苦しい思いをしてほしくないため、教育、子育てに力を入れて支援してほしい。
- ・親が心身ともにゆとりを持って子育てできる環境整備が必要。

○教育

- ・アジアの玄関口として諸外国と躊躇なく交流できるよう、英語教育に力を入れてほしい。
- ・いじめ問題への対策に力を入れてほしい。
- ・学力の向上だけでなく、本人の自由意思や想像力（創造力）を培う教育も必要。
- ・教育を質・量の両面で充実させてほしい。
- ・大学進学の際の費用の助成・援助の仕組みを充実させてほしい。
- ・道徳教育にも力を入れてほしい。
- ・どの子どもに対しても平等に教育の機会が与えられるようにしてほしい。

○雇用対策

- ・県内の雇用を拡大できれば、若者の労働者が県外に流出するのを防ぐことができるはずだ。
- ・最低賃金を上げてほしい。
- ・中小企業と大手企業の賃金・福利厚生等の格差を是正してほしい。
- ・低賃金かつ重労働であり離職者が後を絶たない状況のため、保育士・幼稚園教諭・介護士の待遇を改善してほしい。
- ・働き方改革の促進を図り、ワークライフバランスが整った社会になってほしい。
- ・非正規雇用者が正規雇用者に登用されるような仕組みを充実させてほしい。
- ・若者だけでなく高齢者の正規雇用者を増やしてほしい。

○防災対策

- ・今後も自然災害による被害が想定されるため、河川における防災設備等を充実させ、災害に強い街づくりを行ってほしい。
- ・自然災害が起きた際に県民同士で助け合う意識の醸成が必要。
- ・住宅等の建物の耐震化に力を入れてほしい。
- ・被災者に対する支援をより一層充実させてほしい。
- ・避難指示の具体化等、災害時における情報伝達体制を充実させてほしい。

○若者

- ・高齢者に対する支援だけでなく、若者に対する支援も充実させてほしい。
- ・将来を見据えて、県内で二世帯・三世帯と続いていくように、若者が働きやすい環境を整備してほしい。
- ・大学を誘致する等により若者が増えれば、より一層県内の活気が増すはずである。
- ・福岡市の一極集中を解消できれば、地方にも若者が増えるはずである。
- ・若者が県内に定住しやすくなるよう、子育て支援や文化交流等はさかんであるべきである。

○地域振興

- ・各地域の特性を活かした振興支援を行ってほしい。
- ・地域の商店街が昔の活気を取り戻せるよう、対策を講じてほしい。
- ・人口、経済が都市圏(福岡市)に集中し、地方の過疎化が進んでいるため、県全体のバランスを考えた対策を講じてほしい。
- ・都市部と地方の一体感を作り出し、多様な文化と自然をもつ福岡を継承していくことが必要。
- ・福岡県に生まれ育って良かったと思える様な県づくりをしてほしい。県という大きな視点で考えるのも良いが、市・町など地域を活性化することにも力を入れてほしい。
- ・福岡市や北九州市だけではなく、その他の地域にも、アミューズメント施設や、飲食街等の整備を進めてほしい。

○保健・医療

- ・医療機関や健康に関するコミュニティがより一層充実し、県全体で健康増進に向けた取組みを行ってほしい。
- ・公的医療機関の診療時間・曜日を拡大してほしい。
- ・高齢者に対する医療費の軽減や免除等の制度があると良い。
- ・子どもの医療費を無償化してほしい。
- ・介護施設について、必要数に対して施設数は圧倒的に少ないため、施設数を充実させると共に、安価に入居できるようにしてほしい。

○環境

- ・空き地や山道の不法投棄が目立つため、対策を講じてほしい。
- ・大気汚染物質が大陸から流れてくるため、対策を講じてほしい。
- ・タバコやごみのポイ捨てを無くし、きれいな街づくりを行ってほしい。
- ・都会になりすぎず、公園等自然を充実させてほしい。
- ・街中に緑が少ない印象があるため、緑が充実していると良い。

○女性

- ・女性が出産後も社会復帰しやすくなるような対策を講じてほしい。
- ・夜でも女性が1人で歩けるような安全な街づくりが必要。

○観光振興

- ・外国人がより一層福岡に来たくなるような環境整備を行ってほしい。
- ・他の都道府県にはない自慢できるもの（食べ物、文化、観光資源等）を一層アピールしてほしい。
- ・地域のブランディングを強化し、地方にも観光名所が増えると良い。
- ・福岡県を人が集まり、活気あふれるアジアの中心都市となるよう対策を講じてほしい。
- ・閉園したスペースワールドに代わるようなレジャースポットを作ってほしい。

○商工業の振興

- ・地方にも商店を充実させてほしい。
- ・都市部を中心に商工業を発展させられるよう、必要な情報提供や諸施策の実施、財政的な支援を願いたい。

○農林水産振興

- ・地産地消を促進すべく、農林水産業の振興が必要。
- ・農林水産業の活性化により、日本一安全な食料供給ができる県を目指してほしい。

○国際交流

- ・アジアの玄関口となるために、国際交流の場を充実させる必要がある。
- ・東京に引けを取らない国際都市となるべく、国際線の充実化や景観の美化に取り組んでほしい。
- ・労働力不足に伴い、外国人労働者が増加していることから、外国人と調和を取りながら発展していく必要がある。
- ・子ども達が小さい頃から外国の方々と接して語学を自然に学べる様な環境がある良い。

○NPO・ボランティア

- ・年齢別に交流やボランティアの機会が充実していると良い。
- ・老若男女問わず、仕事や地域活動、ボランティア活動等で活躍できるような県になってほしい。

○その他

（家族・地域との繋がり・絆）

- ・まずは一人間一個人として福岡在中ということを自覚して、まずは地域から、自分なりに考えて、踏み込むという努力をしないといけないと思う。
- ・地域の人々との交流がしやすい環境づくり。
- ・地域の人と人との付き合いを気軽にできる街にしてほしい。
- ・家族、地域が仲良く、元気に暮らせる社会作り。

(道徳教育・モラル・マナー・県民の意識の向上)

- ・一人一人が最低限のマナーを守る。
- ・人として思いやりのある人間性の育成。福岡県民のマナー向上にもつながる。

(生活保護・低所得者支援・貧困対策などの弱者対策)

- ・弱者に寄りそう福岡県であってほしい。
- ・社会的弱者（障がいのある人、低所得者等）が、健全に暮らして行ける県であってほしい。
- ・弱者に対して、経済に支援を行う行政になってもらいたい。
- ・社会的弱者にあたる人たちも、普通の人々も今いる人々が幸せに暮らせるようにさらに地盤を固めてほしい。

(人口減少問題)

- ・人口の減少に歯止めをかけてほしい。

(文化・スポーツ)

- ・県の特性、各市の地形、歴史的流などの特性を生かして研究し、結果を上げる。
- ・美術館、博物館等の文化鑑賞を無料にして欲しい。
- ・文化・芸術・スポーツに特化した人材を育成する機関（大学）の創設に期待する。
- ・アジア各国からも多くの人々が来る福岡県。国際的な街づくりや人づくりが必要だと思う。一方で歴史的な文化や文化財を大切にしていってほしい。
- ・文化施設の充実（美術館、図書館）。

(幸福について)

- ・地域は昔からみると充実していると思う。高齢者も安心して暮らせるようになってほしい。今のところは健康で自分の事は自分で出来るのが幸福であると思う。
- ・食など元々全国に誇れるものはあるので、良いところはさらによく、弱いところを強化して、日本一の県になることこそ幸福度につながるのではないかと思う。
- ・福岡県は他県よりも文化、歴史、グルメ、観光施設等々、色々有り大変魅力的な県であると思う。この事をみんな誇りに思い優しさを持って助けあっていければ幸福度日本一の県になれると思う。
- ・何かを期待したり、将来を思い描く余裕が無い。子供を育てながら、働いている親が幸福を実感できる余裕を持てる、持ちながら生活できる福岡県にしてほしい。
- ・大都市に感化されすぎないように、無理をせず、背伸びせず、急がず、福岡らしく発展していってほしい。一人でも幸福を実感できるようになるように外を見つつ内を大事にしてほしい。
- ・各市町村が各自治体のやり方で、住みやすい地域を作った上での集合体が県になるので、各自治体のフォローを県として手を添えていくことが、最終的に幸福度アップにつながると思う。
- ・とにかく自分の自由にできる時間や体力、金銭面での余裕があれば幸福度は上がると考える。

(調査について)

- ・今回初めてのアンケート参加でしたが、どれくらいの間隔で意識調査が実施されているのでしょうか。勉強にもなった。頻度を増やして県民の幸福意識を高めてはどうかと思う。

(平和、安全安心)

- ・他県の良い所は取り入れ、あらゆる世代が平等に平和に生活できる福岡県になってほしいと思う。
- ・働けるなら働くという感じで定年があるようではなく、仕事が続けられ、社会の中にいるんだと思えて安全な生活環境があり、かつ、色んな人達と比較しなくていい社会を望みます。穏やかな時間や心の余裕が育めるといいと思う。
- ・安全安心に生活出来る様に、必要であれば民間団体とも連携し活動して欲しい。また、人材育成にも力を注いで欲しい。

(経済発展・経済成長)

- ・九州を一つのまとまりとして運営できる機能を目指して欲しい。
- ・自然を取り込んだ住環境を住民自身が作ることを目指すように提案し続けてもらいたい。

(その他)

- ・ワークライフバランスが実現して、綺麗な街に地元住民が長く住み続ける街にしてほしい。福岡に戻ってきたいと思われる街にしてほしい。
- ・人にやさしい、県づくり。
- ・日用品の買物に行けるように、近所に店か送迎などのサービスが欲しい。
- ・中央だけでなく県の隅々まで見て欲しい。
- ・県の事業PRの強化。

4. 本調査における特徴的な結果

(1) 幸福実感の“判断基準”と“重視事項”による幸福実感の差

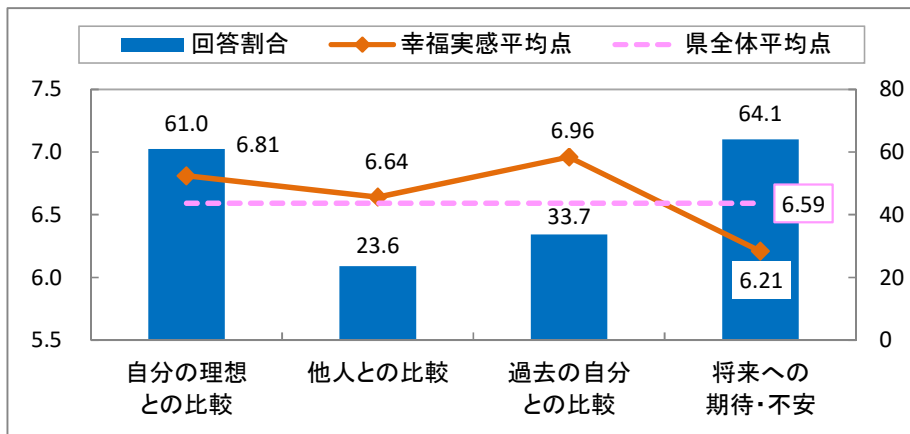
- 「過去の自分との比較」、「自分の理想との比較」、「他人との比較」を判断基準とした層の幸福実感は、比較的高い。
- 「将来への期待・不安」を判断基準とした層の幸福実感は、比較的低い。

幸福実感を判断する上で重視した基準（以下、判断基準）別に幸福実感平均点をみると、「過去の自分との比較」（6.96点）が最も高く、次いで、「自分の理想との比較」（6.81点）、「他人との比較」（6.64点）、「将来への期待・不安」（6.21点）となっています。なお、判断基準別の平均点の順位は前回調査と同様の結果となっています。

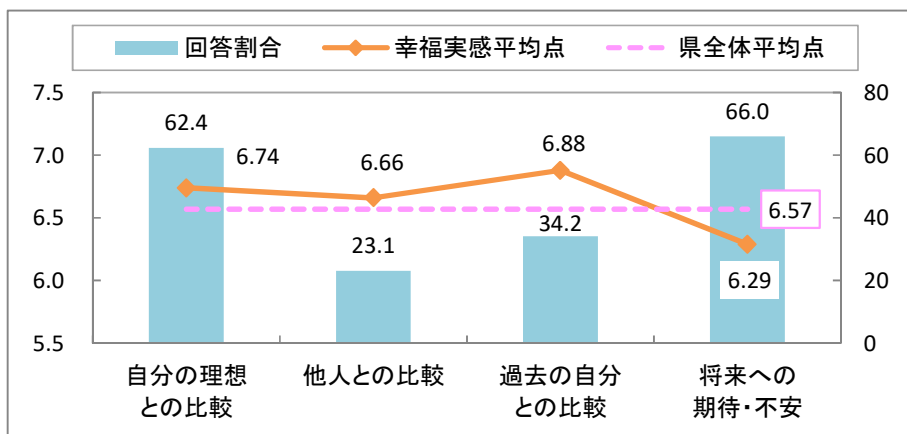
「自分の理想との比較」、「他人との比較」、「過去の自分との比較」では、平均点が県全体より高いことから、県全体の平均点にプラスの影響を与えていることが考えられます。

一方で、「将来への期待・不安」は平均点が低く、将来について期待よりも不安を感じている層が、県全体の平均点にマイナスの影響を与えていると考えられます。なお、「将来への期待・不安」は回答割合が最も多く、県全体の64.1%を占めています。

判断基準別の回答割合と幸福実感平均点



判断基準別の回答割合と幸福実感平均点（前回）



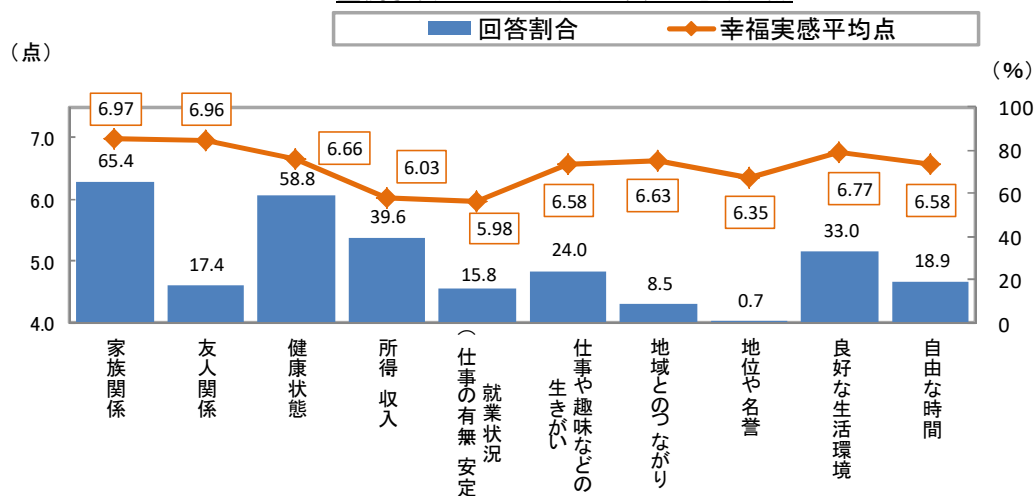
- 「家族関係」、「友人関係」を重視事項とした層の幸福実感は、比較的高い。
- 「就業状況」、「所得・収入」を重視事項とした層の幸福実感は、比較的低い。

幸福実感を判断する上で重視した事項（以下、重視事項）別に幸福実感平均点をみると、「家族関係」（6.97点）が最も高く、次いで、「友人関係」（6.96点）となっています。また、「就業状況」（5.98点）、「所得・収入」（6.03点）は平均点が低くなっています。なお、重視事項別の平均点の水準は、前回調査とほぼ同様の結果となっています。（「地位や名誉」を除く）。

「家族関係」や「友人関係」の平均点が高いことから、身近な人間関係に満足している層が、県全体の平均点にプラスの影響を与えていると考えられます。なお、「家族関係」の回答割合は県全体の約7割、「友人関係」は約2割となっています。

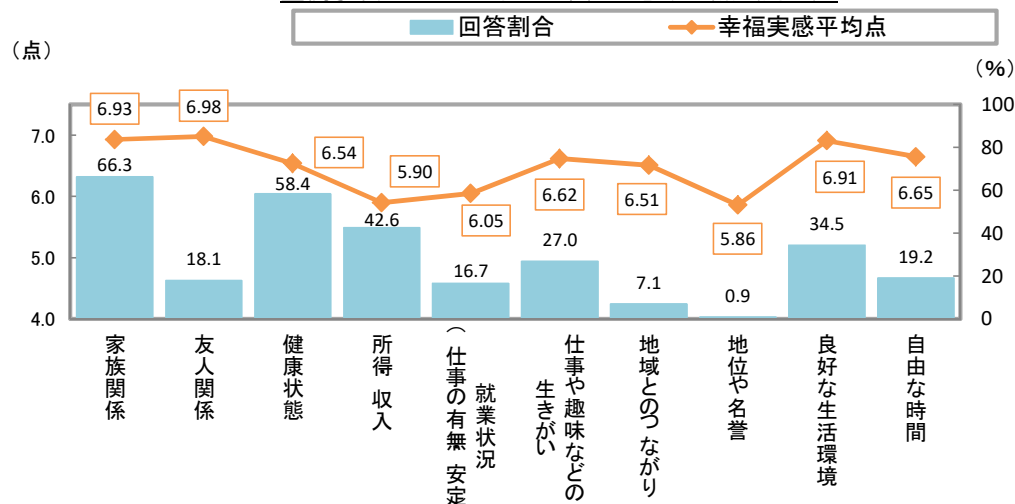
また、「就業状況」や「所得・収入」の平均点が低いことから、仕事関係や経済的な面で不満を感じている層が、県全体の平均点にマイナスの影響を与えていると考えられます。なお、「就業状況」の回答割合は県全体の約2割、「所得・収入」は約4割となっています。

重視事項別の回答割合と幸福実感平均点



※「地位や名誉」はサンプル数が少ないため、分析から除外している

重視事項別の回答割合と幸福実感平均点（前回）



(2) 家族構成による幸福実感の差

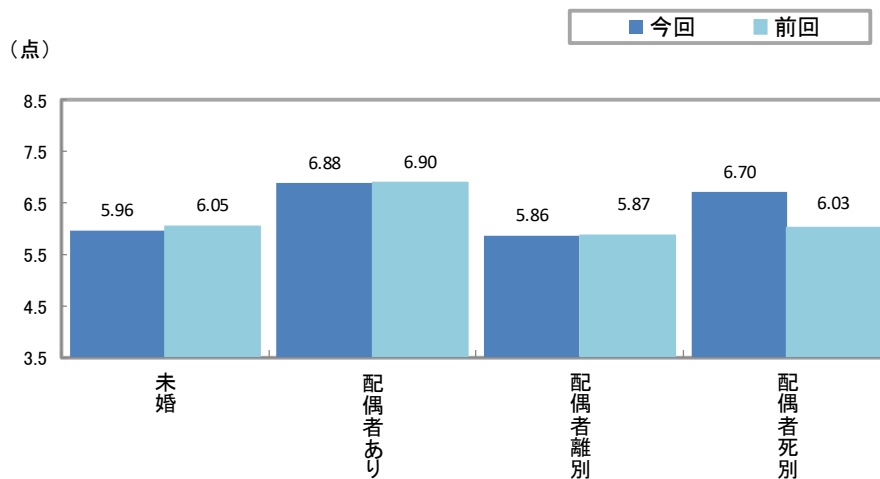
- 「配偶者あり」は「未婚」等比べて、幸福実感が高い。
- 男性は女性に比べて、「配偶関係」が幸福実感に与える影響はやや大きい。

配偶関係別に幸福実感平均点をみると、「配偶者あり」(6.88点)が最も高く、次いで、「配偶者死別」(6.70点)、「未婚」(5.96点)、「配偶者離別」(5.86点)の順となっており、前回調査と比較すると「配偶者死別」の層の幸福実感の点数が高くなっています。

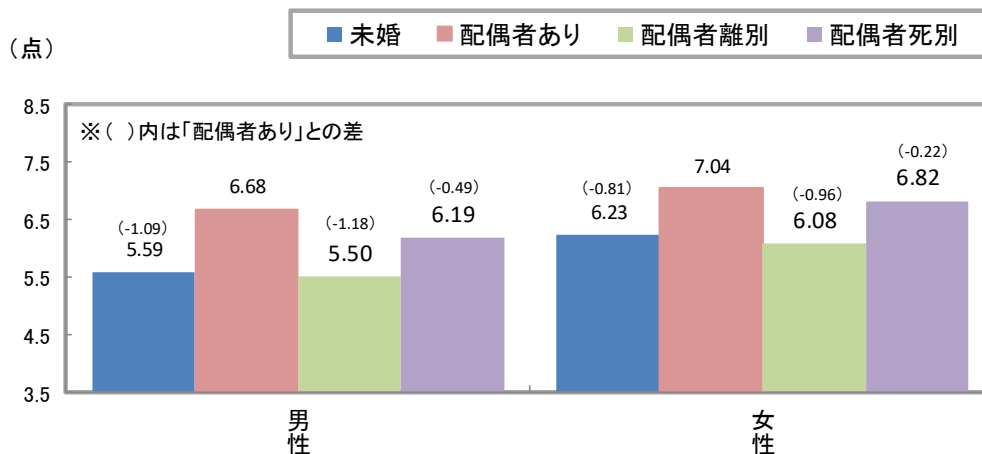
男女別にみると、男女ともに「配偶者あり」の平均点が最も高くなっています。また、「未婚」と「配偶者あり」との平均点の差を比較すると、男性は1.09点差、女性は0.81点差となっています。なお、前回調査では、男性は0.99点差、女性は0.78点差でした。

「未婚」と「配偶者あり」の差から、男性の方が女性よりも、配偶関係が幸福実感に与える影響がやや大きいことがうかがえます。

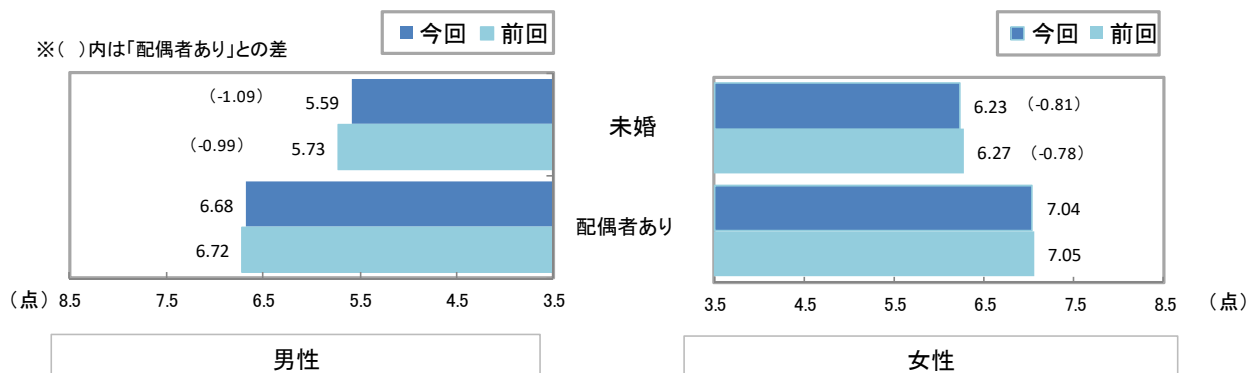
配偶関係別の幸福実感平均点



配偶関係別の幸福実感平均点(男女別)



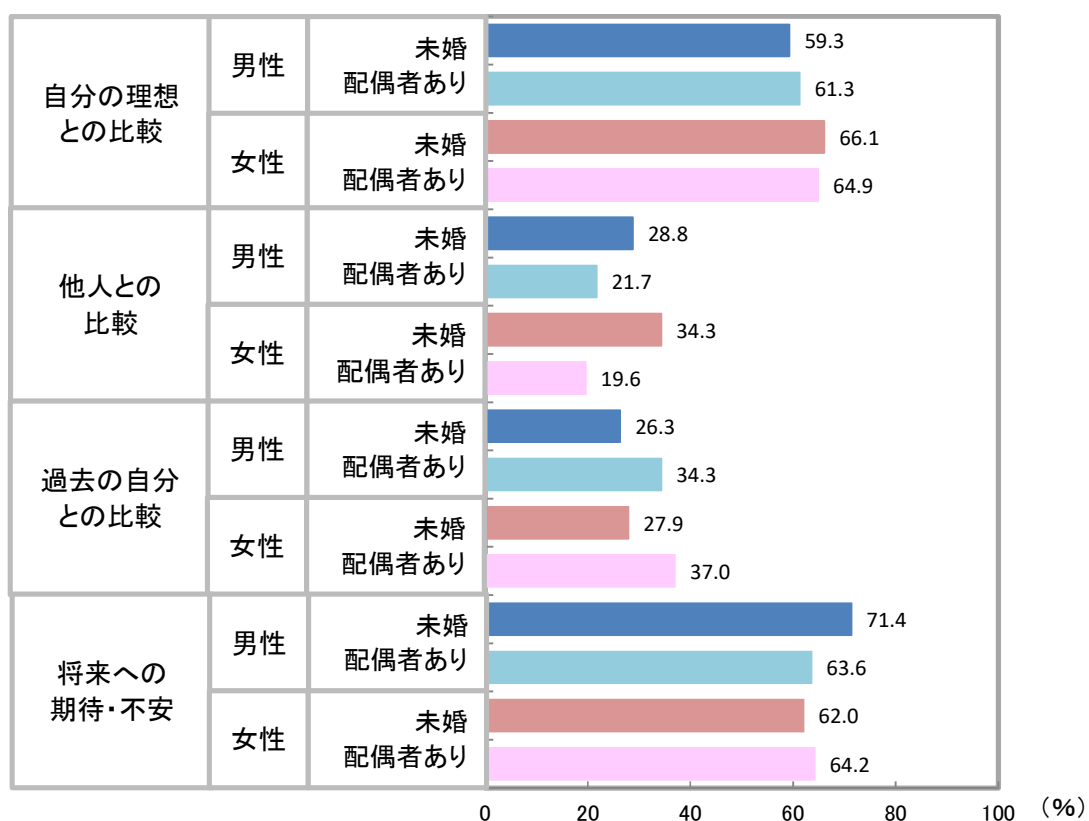
配偶関係別の幸福実感平均点（男女別：前回との比較）



また、幸福実感の判断基準の回答割合をみると、男性は「未婚」「配偶者あり」にかかわらず、「将来への期待・不安」の割合が高く、女性は「未婚」「配偶者あり」にかかわらず、「自分の理想との比較」の割合が高くなっています。

「未婚」と「配偶者あり」との差を比較すると、男性は「将来への期待・不安」や「他人との比較」では「未婚」の割合が高く、それぞれ 7.8 ポイント差、7.1 ポイント差となっています。また、「過去の自分との比較」では「配偶者あり」の割合が高く、8.0 ポイント差となっています。女性は「他人との比較」では「未婚」の割合が高く、14.7 ポイント差となっています。「過去の自分との比較」では「配偶者あり」の割合が高く、9.1 ポイント差となっています。

配偶関係別の幸福実感判断基準（男女別）

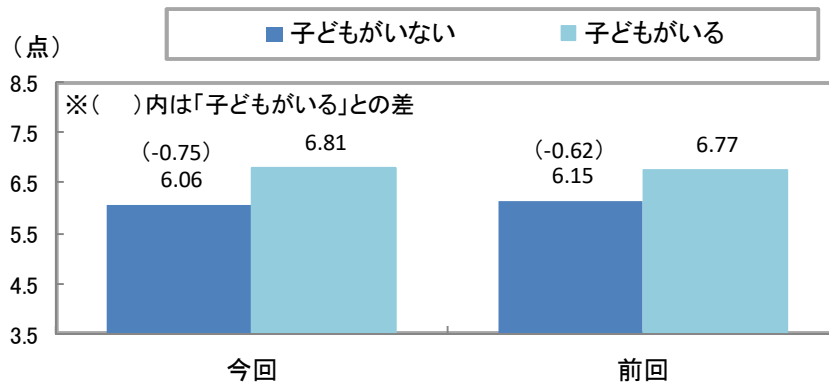


- 「子どもがいる」は「子どもがいない」に比べて、幸福実感が高い。
- 女性は男性に比べて、子どもの有無が幸福実感に与える影響がわずかに大きい。

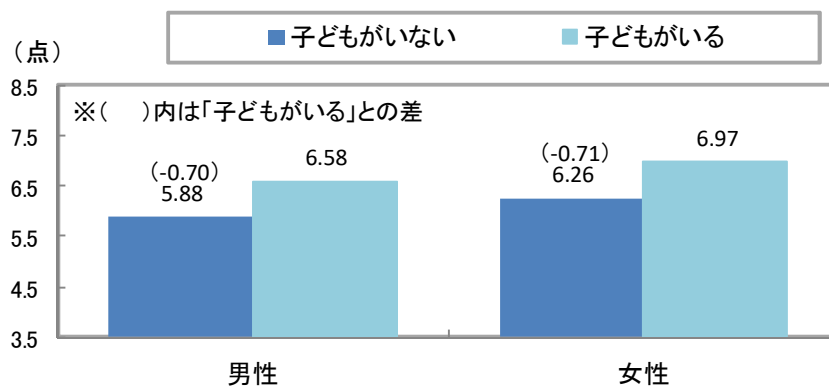
子どもの有無別に幸福実感平均点をみると、「子どもがいる」(6.81 点)が「子どもがいない」(6.06 点)に比べて0.75 点高くなっています。なお、前回調査でも「子どもがいる」が高く、0.62 点差でした。

男女別にみると、男女ともに「子どもがいる」の平均点が高くなっています。平均点の差を比較すると、男性は0.70 点差、女性は0.71 点差となっており、子どもの有無が幸福実感に与える影響は男女ともほぼ同じであることがうかがえます。

子どもの有無別の幸福実感平均点



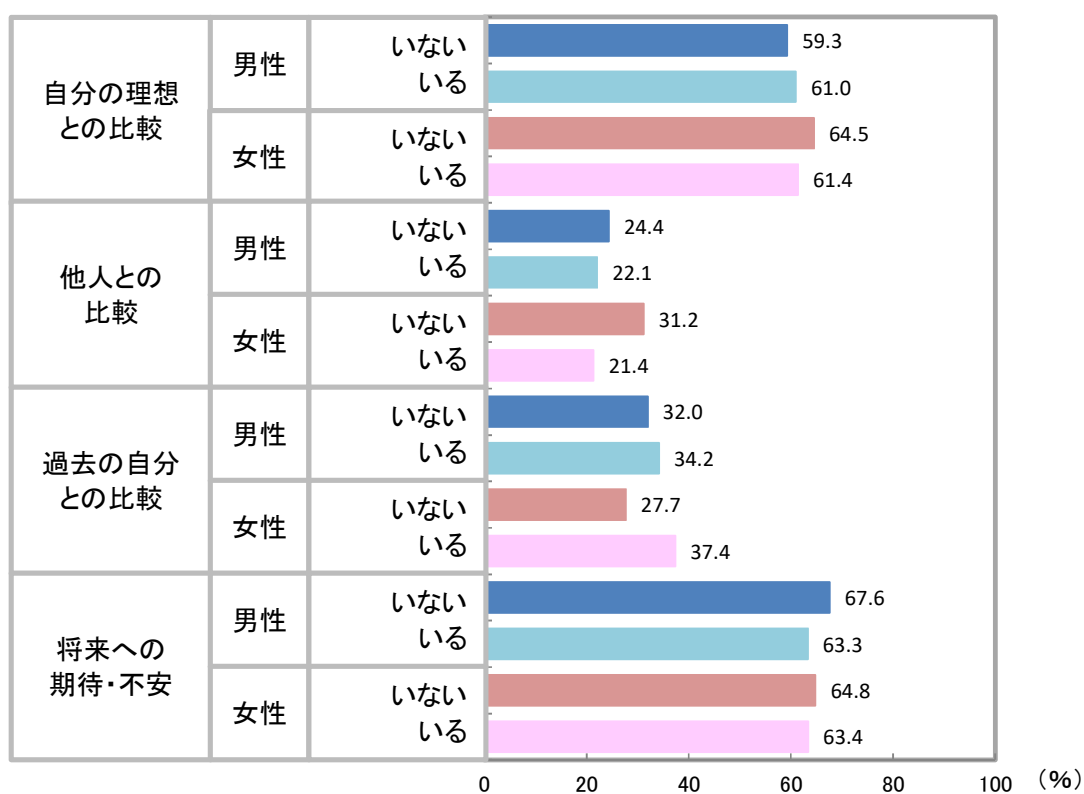
子どもの有無別の幸福実感平均点 (男女別)



また、幸福実感の判断基準の回答割合をみると、男女ともに「子どもがいない」「子どもがいる」にかかわらず、「将来への期待・不安」の割合が高くなっています。

「子どもがいない」と「子どもがいる」との差を比較すると、男性では「将来への期待・不安」、女性では「他人との比較」や「過去の自分との比較」で大きな差がみられます。男性の「将来への期待・不安」では、「子どもがいない」の割合が高く、4.3ポイント差となっています。女性の「他人との比較」では9.8ポイント差で「子どもがいない」の割合が高く、「過去の自分との比較」では9.7ポイント差で「子どもがいる」の割合が高くなっています。

子どもの有無別の幸福実感判断基準（男女別）



(3) 男女別・年代別による幸福実感の差

- 女性は男性より幸福実感が高く、18・19歳を除く年代で県平均点を上回っている。
- 男性では30歳代が県平均を上回っている。
- 30歳代男性は幸福実感の点数が前回調査より大きく上がっている。
- 18・19歳男性、18・19歳女性、20歳代男性、30歳代女性、60歳代女性は幸福実感の点数が前回調査より大きく下がっている。

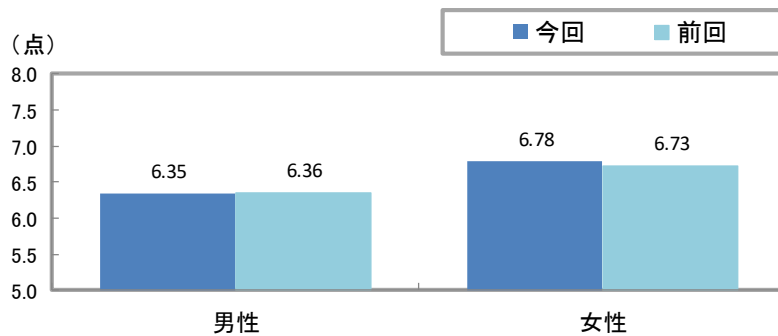
男女別に幸福実感平均点をみると、女性が0.43点高くなっています。前回調査と比較すると、男性は0.01点下がり、女性は0.05点上がりました。

性・年代別にみると、男性は30歳代以外のすべての年代が県全体の平均点を下回り、女性は18・19歳が県全体の平均点を下回りました。特に、18・19歳男性（5.07点）が最も低く、次いで50歳代男性（6.05点）が低くなっています。

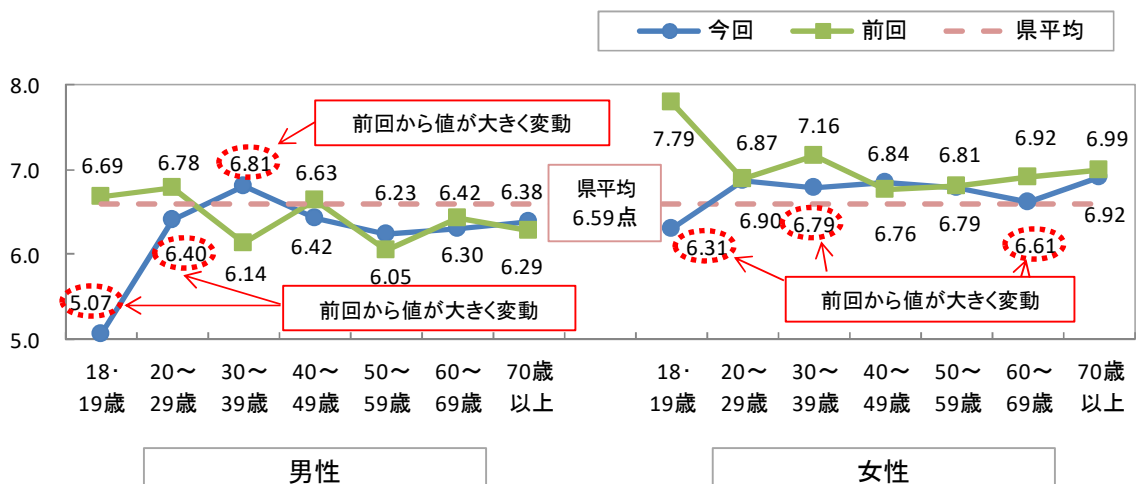
また、前回調査と比較すると、30歳代男性は0.67点上がっている反面、18・19歳男性は1.62点、18・19歳女性は1.48点、20歳代男性は0.38点、30歳代女性は0.37点、60歳代女性は0.31点下がっています。

なお、18・19歳代はサンプル数が僅少であり比率が変動しやすいため、分析は省略します。

男女別の幸福実感平均点



男女・年代別の幸福実感平均点

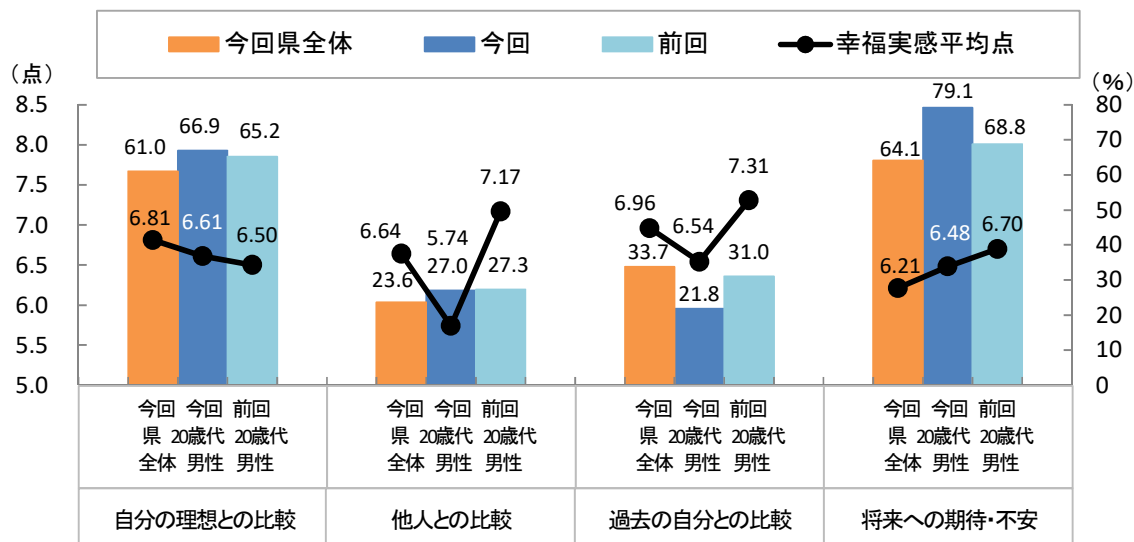


20歳代男性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「将来への期待・不安」が、前回調査より10.3ポイント増となっています。また、「将来への期待・不安」が約8割、「自分の理想との比較」が約7割で他の2項目と比較して高くなっています。

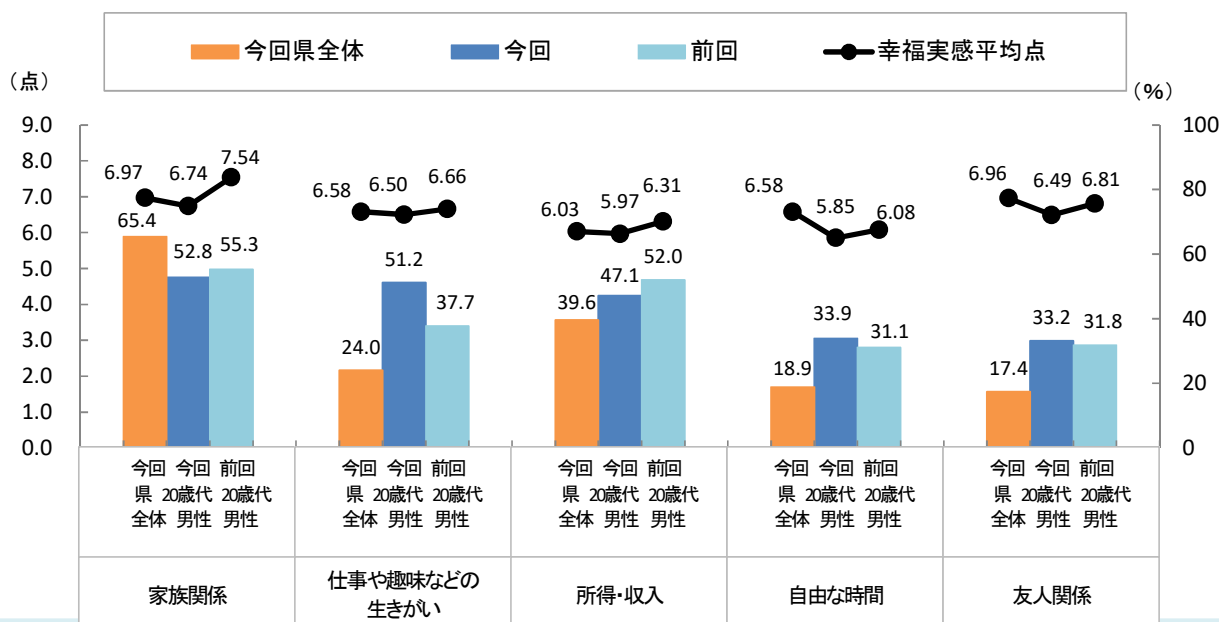
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「仕事や趣味などの生きがい」が前回調査より13.5ポイント増となっている一方、「所得・収入」は4.9ポイント減となっています。また、幸福実感の平均点はすべての項目で下がっています。

これらのことから、20歳代男性の幸福実感にマイナスの影響を与えているのは、自分の理想との比較、そして将来を考えた場合に、仕事や趣味などの生きがいといった面で不満や不安を感じていることではないかと考えられます。

【20歳代男性】判断基準別の幸福実感平均点



【20歳代男性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

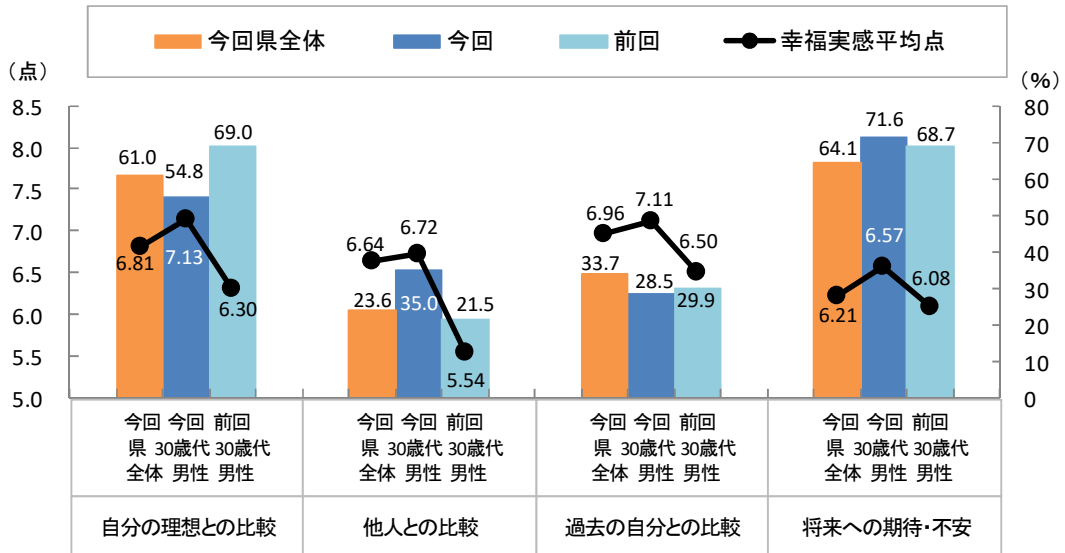


30歳代男性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「自分の理想との比較」では前回調査より14.2ポイント減、「過去の自分との比較」では1.4ポイント減となっている一方、「他人との比較」では13.5ポイント増、「将来への期待・不安」では2.9ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点は、いずれも前回調査より上がっています。

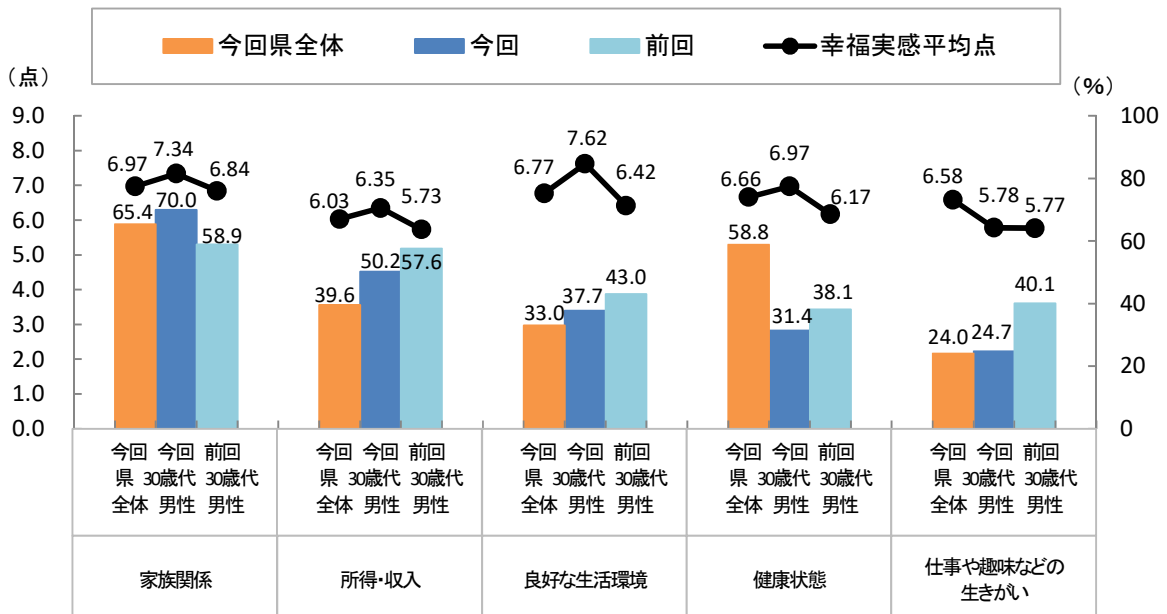
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「家族関係」を除くすべての項目で前回調査より減少しています。また、幸福実感の平均点はすべての項目で前回調査より上がっています。

これらのことから、30歳代男性の幸福実感にプラスの影響を与えているのは、家族関係について、他人と比較した場合の満足度や将来への期待と考えられます。

【30歳代男性】判断基準別の幸福実感平均点



【30歳代男性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

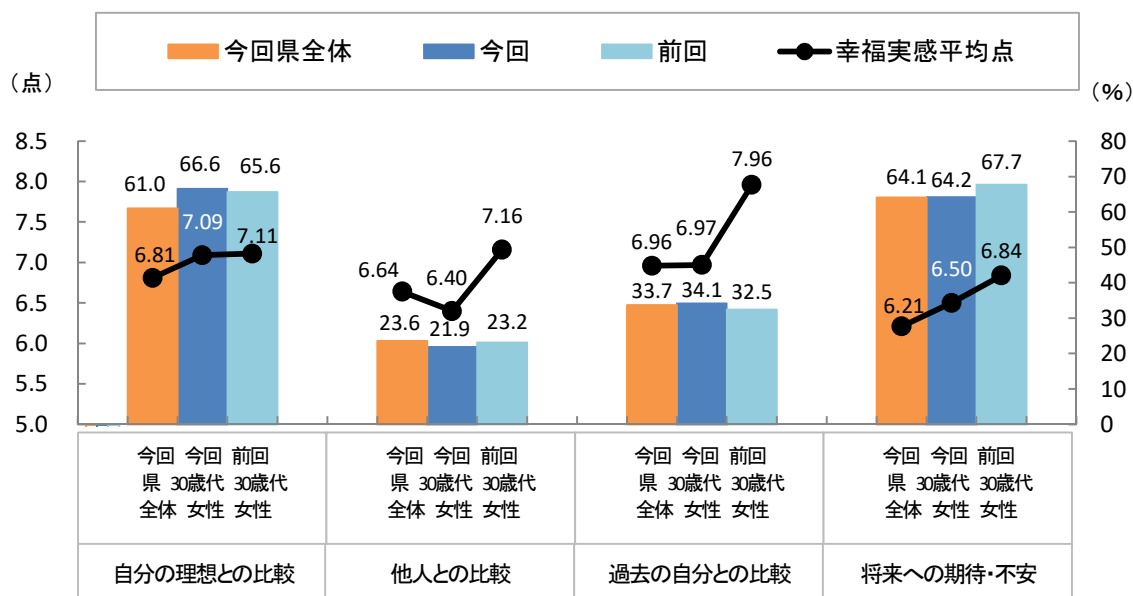


30歳代女性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、各項目は前回調査から大きな変化はありませんが、「自分の理想との比較」が約7割、「将来への期待・不安」が約6割、で他の2項目と比較して高くなっています。幸福実感の平均点は、いずれも前回調査より下がっています。

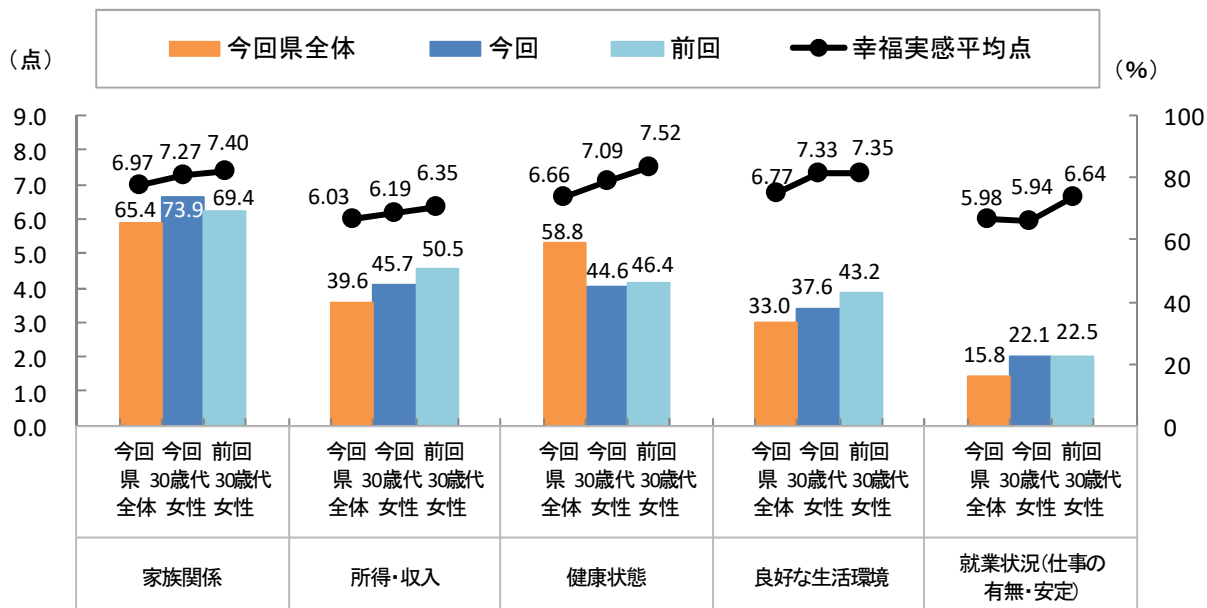
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「家族関係」が前回調査より4.5ポイント増となっています。「家族関係」を除く項目は、いずれも前回調査より減少しており、特に「良好な生活環境」は5.6ポイント減、「所得・収入」は4.8ポイント減となっています。また、幸福実感の平均点はすべての項目で前回調査より下がっています。

これらのことから、30歳代女性の幸福実感にマイナスの影響を与えているのは、家族関係について、将来への不安や自分の理想との差に対する不満ではないかと考えられます。

【30歳代女性】判断基準別の幸福実感平均点



【30歳代女性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）

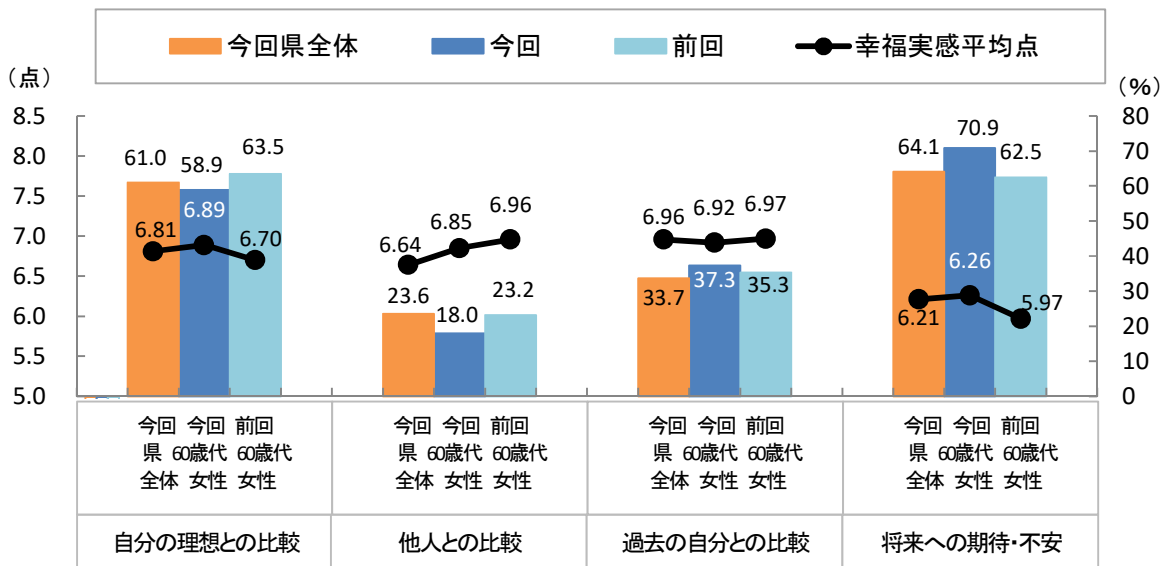


60歳代女性の幸福実感判断基準の回答割合をみると、「他人との比較」では前回調査より5.2ポイント減、「自分の理想との比較」では前回調査より4.6ポイント減となっている一方、「将来への期待・不安」では8.4ポイント増となっています。

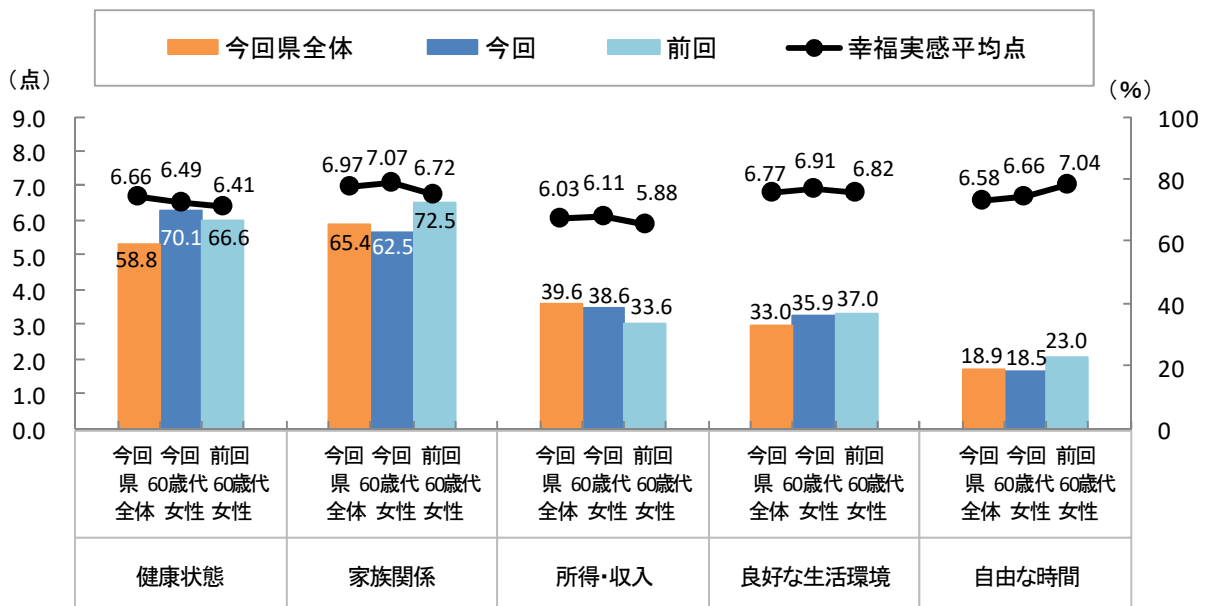
重視事項の回答割合を上位5項目でみると、「家族関係」が前回調査より10.0ポイント減、「自由な時間」が4.5ポイント減となっている一方、「所得・収入」が5.0ポイント増となっています。また、幸福実感の平均点は、「自由な時間」を除くすべての項目で前回調査より上がっています。

これらのことから、60歳代女性の幸福実感にマイナスの影響を与えているのは、将来を考えた場合に、所得・収入や自由な時間などで不安を感じていることではないかと考えられます。

【60歳代女性】判断基準別の幸福実感平均点



【60歳代女性】重視事項別の幸福実感平均点（※上位5項目）



IV. 資料編

福岡県民意識調査

～ご協力のお願い～

日頃より県政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

福岡県では、県民の皆様一人ひとりが福岡県に生まれて良かった、生活して良かったと実感できる「県民幸福度日本一」の福岡県を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

この調査を通じて、幸福実感や行政に対し力を入れてほしいことなど、広く県民の皆様のご意見をお聞きし、その結果を今後の県政運営に反映させたいと考えています。

調査対象の選定にあたりましては、県内にお住いの18歳以上の方々の中から4,000名を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

福岡県知事 小川 洋

令和元年7月

1. 必ずご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意見などを代理の方が記入されてもかまいません。
2. この調査は無記名で行い、ご回答の内容については、「こういう意見の方が全体の何%」というように、すべて統計数値として集計いたしますので、お答えいただきました方のお名前や個人の回答内容が公表されることは一切ございません。
3. 各質問のご回答は、特に説明がないかぎり、あてはまる項目の番号に○をお付けください。質問文に「1つだけ」、「2つ」など指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
4. 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
5. 「その他」を選ばれたときは、お手数ですがその内容を（ ）の中に具体的に記入してください。
6. これまでに実施した同アンケートの結果は、福岡県のホームページでご覧いただけます。
*インターネット検索で「福岡県民意識調査」とご検索ください。

アンケート調査票の回収について

ご記入後、アンケート調査票を折って、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
7月26日（金）までに郵便ポストに投函してください。

【お問い合わせ先】

調査主体：福岡県企画・地域振興部総合政策課重点政策班 担当：池

住所：福岡市博多区東公園7番7号

TEL：092-643-3158 FAX：092-643-3160

調査実施機関：株式会社 東京商工リサーチ福岡支社 担当：村岡

住所：福岡市博多区博多駅前4丁目9番2号

TEL：092-431-2131 FAX：092-473-6126

【幸福実感について】

あなたの幸福の捉え方などについてお聞かせください。

問1 現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

← とても不幸	とても幸せ →											
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">0</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">6</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">7</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">8</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">9</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">10</td> </tr> </table>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	点
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		

問2 幸福実感を判断する上で、あなたが重視した基準を2つ選び、○で囲んでください。(○は2つ)

1. 自分の理想との比較
2. 他人との比較
3. 過去の自分との比較
4. 将来への期待・不安

問3 幸福実感を判断する上で、あなたが重視した事項を3つ選び、○で囲んでください。「その他」を選ばれる場合は、カッコ内に具体的にお書きください。(○は3つ)

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 家族関係 | 7. 地域とのつながり |
| 2. 友人関係 | 8. 地位や名誉 |
| 3. 健康状態 | 9. 良好な生活環境 |
| 4. 所得・収入 | 10. 自由な時間 |
| 5. 就業状況(仕事の有無・安定) | 11. その他() |
| 6. 仕事や趣味などの生きがい | |

問4 あなたは、5年前に比べ、ご自分が実感として幸せになっていると思いますか。あてはまる番号を1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 思う
2. ある程度思う
3. どちらとも言えない
4. さほど思わない
5. 思わない

問5 あなたは、5年後は、今よりご自分が実感として幸せになっていると思いますか。
あてはまる番号を1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 思う
2. ある程度思う
3. どちらとも言えない
4. さほど思わない
5. 思わない |
|---|

問6 あなたは、福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思いますか。
あてはまる番号を1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|---|--|
| 1. 思う
2. ある程度思う
3. どちらとも言えない
4. さほど思わない
5. 思わない | |
|---|--|

問6-2 「問6」の答えについて、その理由は何ですか。
あなたがそう思われた理由を、ご自由にお書きください。

(農林水産振興)

問9 食料などの生産や安定供給だけでなく、県土の保全などにも大きく貢献している福岡県の農林水産業を、今後さらに発展させていくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 県産農林水産物とその加工品の一体的な売り込みによる販売・消費の拡大
2. 県産農林水産物のブランド化推進
3. 県産農林水産物を原料とした加工品の開発、販売を行う6次産業化の推進
4. 安全・安心で高品質な農林水産物の供給
5. 県産農林水産物の海外への輸出促進
6. 地産地消の拡大や食育・木育・花育の推進
7. 新規就農者など、農林水産業の意欲ある担い手の育成・確保
8. 県内外での県産農林水産物のPR
9. 生産者と消費者の交流・体験活動などによる農山漁村の活性化
10. 山間部など農業の生産に不利な地域への支援
11. 農地の保全、耕作放棄地の活用
12. イノシシなどの鳥獣被害防止対策
13. 直売所や道の駅などを活用した県産農林水産物の消費拡大
14. 水産資源(魚介類などの水産物)の維持・回復
15. 女性の活躍による農林水産業の活性化
16. 公共建築物や住宅などにおける県産木材の利用促進
17. その他 ()



福岡県マスコットキャラクター「エコトンファミリー」

(教育)

問 14 個性や能力に富み、学力・体力を備えた子どもを育てるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力、体力向上のための取組みの推進 2. 性や心の健康課題の解消、望ましい食習慣を学ぶための健康教育の充実 3. 郷土を愛する心や人の痛みが分かる心など道徳性を養う心の教育の充実 4. 実体験を重視した教育の推進 5. いじめや不登校等への対応 6. 青少年の非行防止と健全育成 7. 学校、家庭、地域が連携・協働し、地域ぐるみで子どもを育てる取組みの推進 8. 学校施設、社会教育施設、スポーツ施設の整備・充実 9. 奨学金事業の充実などによる教育機会の確保 10. 信頼される教職員の育成 11. 個性や能力を伸ばす教育の充実 12. 障がいのある子どもたちへの特別支援教育の推進 13. 望ましい職業観・勤労観や技能を身につけるキャリア教育・職業教育の推進 14. 国際感覚あふれる子ども・若者の育成 15. 自分の人権を守り、他者の人権を守るための人権教育・啓発の推進 16. その他 () |
|---|

(若者)

問 15 若者が夢を抱き、将来に向かってはばたくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校や大学等の新規学卒者の就職支援 2. 早期離職防止のための取組みの充実 3. 若者の正規雇用への就職支援 4. 社会的企業（社会問題を解決するために活動する企業等）やNPO（民間の非営利組織）などへの就職紹介、支援 5. インターンシップ（就業体験）などの社会体験の機会の充実 6. 異業種や海外企業との交流などによる人材育成 7. 民間資金を活用した起業や新たなビジネスに挑戦する機会の提供 8. 若者の海外留学の支援や海外派遣研修の実施 9. 若者が定住できる生活環境の整備 10. ひきこもりやニートの自立支援 11. 出会い・結婚支援の充実 12. その他 () |
|--|

(保健・医療)

問 18 必要な医療を受けられ、健康で長生きすることができる社会づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 自主的な健康づくりの支援
2. 生活習慣病対策
3. がん対策
4. むし歯や歯周病の予防対策
5. こころの健康・自殺防止対策
6. 難病患者などへの支援の充実
7. 感染症対策
8. 救急医療体制の確保
9. 在宅医療の推進
10. 山間部や離島などのへき地の医療対策の推進
11. 医薬品などの安全確保
12. 医療・看護を担う人材の育成・確保
13. 認知症を予防するための取組み
14. その他 ()

(NPO・ボランティア)

問 19 NPOやボランティア(以下、「NPO等」という)が活躍する社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまでを選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

※NPO…民間の非営利組織

1. NPO等の活動情報の提供(広報誌やホームページ)
2. 県民とNPO等との出会い・交流の場や活動への参加のきっかけづくり
3. NPO法人(NPOのうち、法人格を取得した団体)への指導の強化
4. NPO等の資質を向上させるための研修の実施
5. 県民や企業によるNPO等への寄附の促進
6. NPO等と行政(県や市町村)がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施
7. NPO等と企業がともに地域課題の解決に取り組む事業の実施
8. NPO等の活動に参加するための休暇制度の促進
9. その他 ()

(防災対策)

問 22 災害に強いまちをつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 県民への防災知識の普及や防災訓練の充実強化
2. 災害時における情報伝達体制の充実
3. 地域の自主防災組織の育成や消防団の充実、災害ボランティアの育成
4. 災害時に自ら避難することが困難な方（要介護者や高齢者など）の避難支援
5. 緊急時の避難場所や避難所の機能充実、帰宅困難者の一時滞在施設の整備
6. 災害時の医療体制の整備
7. 消防・救急体制の充実
8. 住宅、公共施設の耐震化促進
9. 河川改修、ダム建設などの治水対策
10. がけ崩れ、地すべりなどの土砂災害防止対策
11. その他（)

(防犯・事故対策)

問 23 犯罪や事故のない社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 暴力団犯罪の取締り、暴力団排除運動の支援、保護対策
2. 飲酒運転の取締り、飲酒運転撲滅運動の推進
3. 子どもや女性、高齢者を犯罪から守るための取組みの推進
4. 防犯に関する情報提供の充実
5. ニセ電話詐欺や窃盗などの身近な犯罪の取締り
6. インターネットなどのサイバー空間の安全確保に向けた取組みの推進
7. パトカーや制服警察官によるパトロール活動
8. 自主的な防犯活動をしている住民・団体への支援
9. 殺人や強盗など重要凶悪事件の徹底検挙
10. 青少年の非行防止と健全育成
11. 薬物乱用防止対策の推進
12. 交通安全教育や交通規制の見直し、交通取締りなどの交通安全活動の推進
13. 悪質商法などの消費者被害に関する情報提供や消費生活相談体制の充実
14. 食品の安全・安心の確保
15. テロ対策の推進
16. 再犯防止の推進
17. その他（)

(環境)

問 24 環境と調和し、快適に暮らせる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。

(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 地球温暖化対策の推進 (家庭・事業所での省エネ推進、公共交通の利用促進 等) |
| 2. 気候変動の影響への適応 (熱中症予防、高温に強い品種の開発 等) |
| 3. エネルギーの効率的利用と再生可能エネルギー (太陽光、水力など) の普及 |
| 4. ごみの排出抑制、資源化・減量化などリサイクルの推進 |
| 5. 豊かな自然環境や生物多様性の保全・再生 |
| 6. 美しい田園風景や、自然、歴史、文化などを活かした良好な街並みの保全 |
| 7. 公益的機能 (水や空気の供給、土砂災害防止など) を持つ森林の保全や緑化の推進 |
| 8. 大気汚染、水質汚濁、生活排水、土壌汚染、騒音、悪臭などへの対策 |
| 9. 廃棄物の不法投棄対策の強化 |
| 10. 海岸のごみ漂着やマイクロプラスチック、越境大気汚染 (PM2.5、黄砂など) への対策 |
| 11. 環境情報の提供や環境教育の推進、環境保全に取り組む住民・団体への支援 |
| 12. 動物愛護の推進 |
| 13. その他 () |

(重点分野)

問 25 これまで、ご回答いただいた18分野 (問7から問24) において、あなたは特にどの分野に力を入れてほしいですか。次の中から3つまで選び、○で囲んでください。

(○は3つまで)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 商工業の振興 | 10. 女性 |
| 2. 観光振興 | 11. 高齢者・障がいのある人 |
| 3. 農林水産振興 | 12. 保健・医療 |
| 4. 雇用対策 | 13. NPO・ボランティア |
| 5. 地域振興 | 14. 文化・スポーツ |
| 6. インフラ・社会基盤整備 | 15. 国際交流 |
| 7. 子育て支援 | 16. 防災対策 |
| 8. 教育 | 17. 防犯・事故対策 |
| 9. 若者 | 18. 環境 |

【基本項目】

ご意見をお尋ねするのは、以上で終わりですが、お答えいただいたご意見を統計的に分析するため、あなたご自身のことやご家族のことについて、差し支えない範囲でお聞かせください。

F 1. あなたの性別はどちらですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F 2. あなたの年齢（記入日現在）はおいくつですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 18・19歳	5. 50～59歳
2. 20～29歳	6. 60～69歳
3. 30～39歳	7. 70歳以上
4. 40～49歳	

F 3. あなたの職業はどれにあたりますか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 農林水産業（家族従事者を含む）	5. 専業主婦・主夫
2. 自営業・自由業（家族従事者を含む）	6. 学生
3. 企業、役所、団体などの正規職員	7. 無職（定年退職者を含む）
4. パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	8. その他 ()

F 4. あなたは結婚していらっしゃいますか（事実婚を含む）。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 未婚	2. 配偶者あり	3. 配偶者離別	4. 配偶者死別
-------	----------	----------	----------

F 4-2. 「F 4.」で「2. 配偶者あり」と回答された方のみにお尋ねします。

現在、あなた方は共働きですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 共働きである	2. 共働きではない
-----------	------------

F 5. あなたはお子さんがいらっしゃいますか。同居、別居は問いません。

1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 子どもはいない	3. 2人	5. 4人
2. 1人	4. 3人	6. 5人以上

F 5-2. 「F 5.」でお子さんがいらっしゃる方「2. ~ 6.」を選択した方のみにお尋ねします。お子さんと同居していますか。同居されている場合は、同居されているお子さんの段階を全て選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1. 同居している子どもはいない	1. 小学校入学前（乳幼児を含む）
2. 同居している子どもがいる	2. 小学生
	3. 中学生
	4. 高校生、大学生など
	5. 社会人
	6. その他（ ）

F 6. 現在のあなたの世帯構成についてお尋ねします。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 単身世帯（ひとり暮らし）	4. 親と子と孫（3世代同居）
2. 夫婦のみ	5. 兄弟・姉妹同居
3. 親子同居（2世代同居）	6. その他（ ）

F 7. あなたの世帯全体（同居の家族全員の合計）の年間収入（税込み）は、およそどのくらいですか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 100万円未満	4. 500万円以上～1,000万円未満
2. 100万円以上～300万円未満	5. 1,000万円以上
3. 300万円以上～500万円未満	6. わからない

F 8. あなたは、福岡県に何年住んでいますか。過去からの居住年数を全て足した年数を1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 1年未満	4. 10～20年未満
2. 1～5年未満	5. 20年以上
3. 5～10年未満	

F 9. あなたは、福岡県外に1年以上住んだことがありますか。1つだけ選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. ある	2. ない
-------	-------

F10. あなたは、福岡県のお生まれですか。1つだけ選び、○で囲んでください。

(○は1つだけ)

1. はい (福岡県)	2. いいえ (福岡県外)
-------------	---------------

F10-2. 「F10.」で「2. いいえ (福岡県外)」と回答された方のみお尋ねします。あなたのお生まれはどちらですか。1つだけ選び、○で囲んで、() 内に都道府県名、または国名をお書きください。(○は1つだけ)

1. 北海道・東北地方 ()	5. 中国・四国地方 ()
2. 関東地方 ()	6. 九州・沖縄地方 ()
3. 中部地方 ()	7. 国外 ()
4. 近畿地方 ()	

F11. 現在お住いの市町村名についてお尋ねします。1つだけ選び、○で囲んでください。

(○は1つだけ)

北九州地域	福岡地域	筑豊地域	筑後地域
1. 北九州市	14. 福岡市	34. 直方市	49. 大牟田市
2. 行橋市	15. 筑紫野市	35. 飯塚市	50. 久留米市
3. 豊前市	16. 春日市	36. 田川市	51. 柳川市
4. 中間市	17. 大野城市	37. 嘉麻市	52. 八女市
5. 遠賀郡芦屋町	18. 宗像市	38. 宮若市	53. 筑後市
6. 遠賀郡水巻町	19. 太宰府市	39. 鞍手郡小竹町	54. 大川市
7. 遠賀郡岡垣町	20. 古賀市	40. 鞍手郡鞍手町	55. 小郡市
8. 遠賀郡遠賀町	21. 福津市	41. 嘉穂郡桂川町	56. うきは市
9. 京都郡苅田町	22. 朝倉市	42. 田川郡香春町	57. みやま市
10. 京都郡みやこ町	23. 糸島市	43. 田川郡添田町	58. 三井郡大刀洗町
11. 築上郡吉富町	24. 那珂川市	44. 田川郡糸田町	59. 三潁郡大木町
12. 築上郡上毛町	25. 糟屋郡宇美町	45. 田川郡川崎町	60. 八女郡広川町
13. 築上郡築上町	26. 糟屋郡篠栗町	46. 田川郡大任町	
	27. 糟屋郡志免町	47. 田川郡赤村	
	28. 糟屋郡須恵町	48. 田川郡福智町	
	29. 糟屋郡新宮町		
	30. 糟屋郡久山町		
	31. 糟屋郡粕屋町		
	32. 朝倉郡筑前町		
	33. 朝倉郡東峰村		

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

* ご記入後、アンケート調査票を折って、同封の返信用封筒 (切手不要) に入れ、7月26日 (金) までに郵便ポストに投函してください。